

2021-2022 Social Action Report

ソーシャルアクション報告書2021-2022

FREE THE
CHILDREN

誰かのために動く、
キミのための日。

CHANGE
MAKERS
FES 2022

Online
Party



もくじ

Table of Contents

はじめに 03

アクション インパクト

Action Impact 04

数字で見るみんなのアクション

アクション レポート

Action Report 05

1. ボランティア 07
2. 資金調達 16
3. 啓発活動 27
4. 政策提言 51
5. 物資調達 54
6. 自己行動変革 60
7. ソーシャルビジネス 65

アクション キット

Action Kit 68

- オリジナル
1. **ORIGINAL** オリジナルアクションを見つけよう！ 69
スピークアップ
 2. **SPEAK UP** 気になることに声をあげよう！ 70
ラブフェアフェスティバル
 3. **LOVE FAIR FESTIVAL** エシカルなイベントを開こう！ 71
クリエイトチェンジ
 4. **CREATE CHANGE** 募金活動をしよう！ 72
シェアカーズ
 5. **SHARE CARDS** 書き損じはがきを集めよう！ 73
ブックベターワールド
 6. **BOOK BETTER WORLD** 古本を集めて換金しよう！ 74
スケアーハンガー
 7. **SCARE HUNGER** フードドライブ活動をしよう！ 75

はじめに

2020年から始まった新型コロナウイルスの世界中での感染拡大から、早くも3年目を迎えた2022年3月までに、コロナ禍で行動に制限があるなかでも、誰かのためにアクションを起こしてくれた若きチェンジメーカーの皆さんから、今回も非常にユニークで創意工夫にあふれたソーシャルアクションポレートが届きました。

人に会うことや 出かけることを制限され、やりたいことが思うようにできない生活が続くなか、自分もつらいのに、誰かのために、社会のために、世界のために、動いてくれた皆さん、そして自分が起こしたアクションについて報告をお寄せくださった皆さん、本当にありがとうございました。

世界をより良くしたい、誰もが安心して自分らしく過ごせる社会にしたい、といった思いを持って若きチェンジメーカーの皆さんが様々なアクションを起こした様子が私たちのもとにアクションレポートとして届き、とても励まされていた矢先、2022年4月24日、ロシアがウクライナに軍事侵攻をしたという衝撃的なニュースが飛び込んできました。

私たちフリー・ザ・チルドレン・ジャパン (FTCJ) としては、ウクライナを始め、様々な地域で戦争が行われている現状に対して何が私たちにできるのかを考える機会にチェンジメーカー・フェスをしなければ、今こそ、子どもや若者の皆さんが取り組んだソーシャルアクションを発信することで平和について考えることが必要なのではないか、という想いもあり、ソーシャルアクションレポートの編集とチェンジメーカー・フェスの準備を進めました。

皆さんから届けられたソーシャルアクションの数々を発表し、コロナ禍での限られた環境のなかにも関わらず果敢に、より良い世界のためにアクションを起こした25歳以下の子どもや若者の皆さんをお祝いすべく、第2回目のチェンジメーカー・フェスを、2022年3月19日にオンラインにて開催しました。

オンラインでの授業や会議などが日常的に行われるようになり、感染予防のための新しい日常に私たち全員が慣れてきたことから、今年は新しい試みとしてバーチャル空間で交流ができるツール「Spatial Chat」を利用しての開催としました。

これは、ウェブ上で自分のアバター(アイコン)を自由に動かし、相手のアバターに近づけることで声が聞こえたりカメラをオンにしたら姿が見えたりするようになり、まるで同じ場所にいるかのような体験ができる新感覚のバーチャル空間です。今回はこのSpatial Chatのバーチャル空間をチェンジメーカー・フェス用にデザインを新たに行い、まるでライブ会場に実際にみんなが集まっているかのような体験をしながら、話し合いをしたり、スピーチやライブ演奏を聴いたりする2時間のプログラムを開催しました。

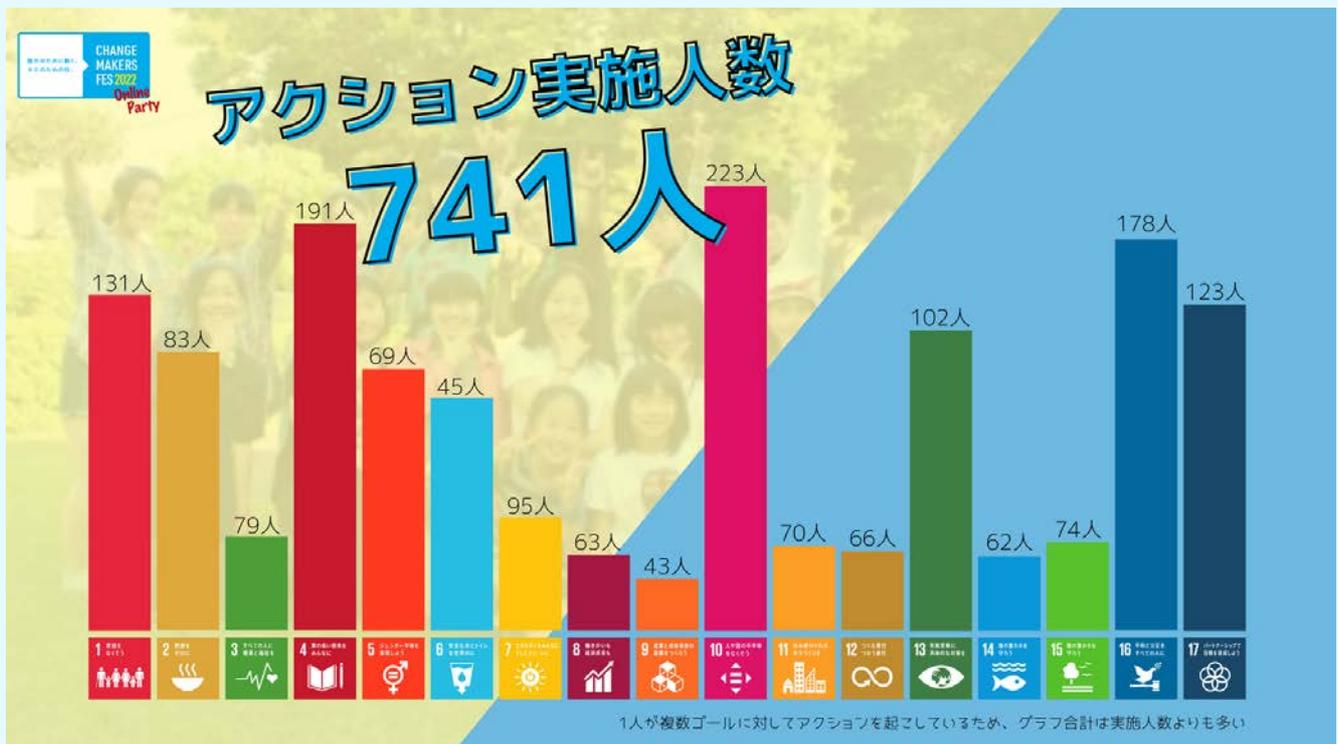
Together, WE can change the world! みんなとなら、世界を変えることができる—このメッセージを日本だけでなく世界へと子どもや若者のチェンジメーカーの皆さんとともに発信していきたいと感じています。

NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン代表 中島早苗

アクション インパクト Action Impact

数字で見るアクション2021-2022

ひとりひとりの活動が集まると、これだけ大きなインパクトに！
そして、アクションで出会った人たちにそれぞれの思いが少しずつ伝わって、
想像できない大きさになり、社会を動かす力に変わっていく！



インパクトを与えた人数
7,710人

集めたもの数 (物資寄付)
4,155個

集めた資金 (寄付額)
178万9615円

ボランティア時間
3,990時間
= 166日6時間

▼寄付やボランティア、活動への参加などアクションのインパクトを受けた団体 (順不同・自治体は省略)
あしなが学生募金、ほっこり食堂、フードバンク関西、フリー・ザ・チルドレンジャパン、ユニセフ、
兵庫県「子ども食堂」応援プロジェクト、タンリン僧院学校、HOYA株式会社アイケアカンパニー、
クルドを知る会、みな風子ども食堂、ユニクロ、

アクションレポート

Action Report

Take Action!

さあ、アクションを起こそう！

だれかが困っている社会の問題を解決するために、何かがしたい！
そう思って立ち上がったチェンジメーカー。

アクションのための方程式

“ Gift (才能) + Issue (解決したい問題) = Change (変化) ”

--好きなこと・得意なことを活かして、自分にできるアクションを考える--
を駆使して取り組んできた1年間の記録です。

社会問題への6つのアクション

1. ボランティア

自分の時間を解決したい問題のために使う方法。
地域の困っている人の手助けをしたり、違う国のコミュニティーのために活動したり、
できること・可能性は無限大！

2. 資金調達

個人、企業などから、募金を集める方法。
貯金をする、自分で作ったものなどを販売する、街頭募金活動を行うなど、
お金の集める方はいろいろ！

3. 啓発活動

他の人に、自分の解決したい問題について知ってもらうために活動する方法。
身近な相手から、不特定多数の人まで、知ってもらう相手も知ってもらう方法も様々！

4. 政策提言

地域・日本・世界で起きている不公正な問題に対して、
それを政策として変化を起こすために、
署名をしたり、議員に直接伝えたり、政治機関に対して働きかける方法。

5. 物資支援

ある“モノ”を必要としている人に、その”モノ”を届ける活動方法。
フードバンクへ食料を寄付する、学校で集めた文具を開発途上国に送るなど。

6. 自己行動変革

自分自身の問題に対する理解を深めたり、自分の良くないと思う癖や習慣を、
良いものに変えていくなど、自分の行動・生活に変化を起こす方法。

1

Volunteering

ボランティア

報告者

形態 グループ
人数 2人
活動地 東京都
区分 小学生

名前/グループ名/グループメンバー

S&T

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 ごみ問題

アクションの種類 ボランティア 実施期間 2021.9.18-10.9

支援先

取り組んだアクション

- ・休日にごみ拾いを2回実施。20Lの袋をいっぱいにしました。
- ・資料を発送の手伝いをしました。



数値的成果

◆お金の寄付	円	◆物の寄付	個
◆ボランティア時間	6 時間	◆インパクトを与えた人数	人
◆その他	2袋の20Lのごみ袋をいっぱいにした。		

なぜこのアクションに取り組んだのか

街中を歩いていてごみがたくさん落ちているのが気になったから。

アクションに取り組んでみての感想

拾っても拾ってもごみがたくさんあるので、また定期的に取り組みたい。

工夫したこと 達成したこと

2回目は、トングや軍手を用意して、最初からできるだけ分別しながら集めた。

困難だったこと 次回に活かすこと

ごみに種類が多くて分別しきれなかった。

メッセージ

捨てる人がいなくなってほしい。風に飛ばされて海のプラスチック問題にもつながり、生物が死んでしまいます。ふと飛ばされたごみもしょうがないではなくしっかり拾いに行って家でしっかり処分してほしいです。

報告者

形態 グループ
人数 4人
活動地 東京都
区分 中学生

名前/グループ名/グループメンバー

Rey

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 貧困

アクションの種類 ボランティア 実施期間 2022.2.25

支援先

数値的成果

◆お金の寄付 円
◆物の寄付 個
◆ボランティア時間 2 時間
◆インパクトを与えた人数 16 人
◆その他

取り組んだアクション

地域のフードパントリーで大人達と共に仕分け作業や来た人に食料品等を手渡した。

なぜこのアクションに取り組んだのか

賞味期限間近だからと消費されにくい食物を、ひとり親家庭や生活が苦しい人に分け合って、食品ロスを少しでも無くしたいと思ったから

このアクションに取り組んでの感想

ひとり親家庭や生活が苦しい人達が沢山いるのを実感して私もひとり親だけど、1人じゃないんだなと思った

工夫したこと 達成したこと

袋に順番に入れる食料品の入れ忘れがないように確認をしながら入れた。相手の人に笑顔で食料を渡した

困難だったこと 次回に活かすこと

次も是非参加したい。もっと多くの人に手渡したいと思った

メッセージ

「1人じゃないんだよ」って言いたい。この言葉は何にでも当てはまると思うから

報告者

形態 人数 活動地 区分
グループ 7人 千葉県 高校生

名前/グループ名/グループメンバー

銀座環境会議

SDGsマルシェチーム

ダラン優那(高校生)、中島真仁(高校生)、
ちかポン(社会人)、他高校生3人、
主催者の方1人

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 SDGsの期限が迫っている時代で私たちが現在出来ること

アクションの種類 ボランティア 実施期間 2021.8.12-10.10

支援先

取り組んだアクション

まっど市民活動サポートセンターが開催した「Let's体験!! 2021」を通じて、主催者である銀座環境会議のもと、高校生5人と社会人1人が「SDGsマルシェ」というボランティア活動に参加。開催地であるCoworkingSpaceFlat Cafe&barにて、持続可能な社会を体感するよう、古本や古着、昆虫食や無添加菓子、バナナペーパー等を1日限定でまとめて販売した。SDGs達成に貢献するような商品のみを選ぶよう、夏休みから活動を開始。最初に「2030 SDGsゲーム」を実践してSDGs達成の難しさを体感した。その後の事前打ち合わせで、各メンバーが決めた担当商品を主催者さんと相談しながら販売するものを絞り込んだ。ある回の事前打ち合わせではなんと、メンバーがイノシシ肉やシカ肉、コオロギ等といった変わった食べ物を試食！食べ物の持続性の難しさを改めて感じた。



数値的成果

◆お金の寄付	円	◆物の寄付	個
◆ボランティア時間	時間	◆インパクトを与えた人数	人
◆その他			

なぜこのアクションに取り組んだのか

このアクションを起こせば、消費者としての当たり前な行為だけでなくSDGsも当たり前を受け入れた上で生活することを促すと思ったから。私たち消費者はSDGsを当たり前を受け入れた上で、市場での買い物を慎重にしていかなければならない。そうすることで、持続可能な社会へ発展していこう。

アクションに取り組んでみての感想

辛いこともあったけれど、SDGsについて人々の行動を促せてよかった。

工夫したこと 達成したこと

SDGsについて消費者に少しでもわかるよう、各ブースの担当者が商品についての説明や選んだ理由等を口頭で言った。また、私の担当だったバナナペーパー製品が唯一の黒字となった。

困難だったこと 次回に活かすこと

商品とSDGsとのつながりを詳しく説明すると混乱してしまうので、それを簡潔にすることが難しかった。また、唯一の黒字が私の担当であったバナナペーパー製品であり、商品選びの慎重さの重要性を感じた。SDGsに関連する商品をこれからも消費していこうと思う。

メッセージ

SDGsとは何だろう？と思っているあなたへ。こちらの記事を参考にして役立つことや、アクションを起こすきっかけになれば嬉しいです。SDGsについて簡単な説明が綴られてる本などを読むことなどから学び始めてみよう。辛いと思うかもしれないけれど、実際に学んでみると楽しいことがあるかも！

参考文献

<https://coworkingspaceflat.com/event/211003/>
<https://www.ginzakankyokaigi.net/blog/categories>
活動：ボランティア受け入れ

報告者

形態 人数 活動地 区分
個人 1人 兵庫県 高校生

名前/グループ名/グループメンバー

HINA N.

兵庫県立舞子高等学校 「災害とボランティア」 選択者

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 全ての人に交流の楽しさ・伝え合うことを取り戻してほしい。

アクションの種類 ボランティア 実施期間 2022.1.6

支援先

取り組んだアクション

高齢者施設で暮らしている方々に向けて、絵本の読み聞かせをおこなう。コロナ禍の状況の中で、実際に施設に伺ってアクションをすることができなかったので、リモートで読み聞かせを行った。



数値的成果

◆お金の寄付	円	◆物の寄付	個
◆ボランティア時間	0.5 時間	◆インパクトを与えた人数	15 人
◆その他			

なぜこのアクションに取り組んだのか

高齢者施設で暮らしている方々は、外出できる機会があまりなく、人と接する機会も限られてくる。そのような状況の中で、何かを学んだり、健やかでいられるようなアクションをしたいと思ったから。

アクションに取り組んでみての感想

いざとなった時には、性別・年齢など関係なく、助け合うことが大切だと思った。周りの人たちが協力・参加してくれたからこそ、アクションを達成できた。周りの人の大切さが身にしみてわかった。

工夫したこと 達成したこと

コロナ禍の状況でも達成できるよう、リモートにした。

困難だったこと 次回に活かすこと

リモートでは聞こえづらかったり伝わりにくいと思ったので、大きな声でジェスチャーも付けて伝えやすくした。

メッセージ

世代をこえた交流や、自分から何かを発信することが楽しくて温かさがあったなと思った。

報告者

形態 人数 活動地 区分
個人 1人 兵庫県 高校生

名前/グループ名/グループメンバー

MIYUTO H.

兵庫県立舞子高等学校
「災害とボランティア」選択者

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 海洋汚染（プラスチック）問題

アクションの種類 ボランティア 実施期間 2021.12.1-2022.1.31

支援先

取り組んだアクション

日常生活では、「ごみの分別」「マイバックを持参する」「使い捨てスプーンを利用しない」「過剰包装を断る」、を行った。学校行事の際に、海洋汚染の現状と上記の行動について発表をした。



数値的成果

◆お金の寄付	円	◆物の寄付	個
◆ボランティア時間	0.5 時間	◆インパクトを与えた人数	40 人
◆その他			

なぜこのアクションに取り組んだのか

近年、海洋汚染問題は、大きな地球環境問題として解決法などが模索されているが、一向に解決に向かわず、自分が行動を起こそうと思ったから。

アクションに取り組んでみての感想

この問題の大きさに直面して、1人ではどうしようもないことが分かった。しかしそれでも多くの人が小さなことでもいいので積み重ねていくと間違いなく解決に向かうと感じた。

工夫したこと
達成したこと

多くの人にわかりやすく簡単なアクション方法を提供した。

困難だったこと
次回に活かすこと

問題の特に大事なところを抜粋し、自分なりにまとめることが難しかったが、多くの人と共有できる内容を選ぶことを意識した。

メッセージ

多くの人が小さなことでもいいので、積み重ねていくと間違いなく解決に向かうと思う。

形態 人数 活動地 区分
 グループ 18人 茨城県 高校生
 名前/グループ名/グループメンバー
 常磐大学高等学校JRC部

報告者

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 子どもの貧困

アクションの種類 ボランティア 実施期間 2021.11.15-11.17

支援先 あしなが学生募金



取り組んだアクション

あしなが学生募金活動に参加

数値的成果

◆お金の寄付	19,887 円	◆物の寄付	個
◆ボランティア時間	時間	◆インパクトを与えた人数	1,100 人
◆その他	全生徒と教員を合わせて1100人いる学校です。そこで3日間昼休みと放課後に募金活動をしました。		

なぜこのアクションに取り組んだのか

アフリカの社会問題の現状をしって少しでも協力したいと思ったから

アクションに取り組んでみての感想

募金してもらう難しさなどを感じてどうしたらいいのかを考えながら活動した

工夫したこと
達成したこと

人通りの多い購買部や自販機の近くで募金活動をした

困難だったこと
次回に活かすこと

なかなか募金してくれる人が少ない

メッセージ



報告者

形態 グループ 人数 4人 活動地 香川県 区分 高校生
名前/グループ名/グループメンバー
チヒロ

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 待機児童 子育ての不安

アクションの種類 ボランティア 実施期間 2021.6.2-2022.2.8

支援先 協力 ほっこり食堂さん



実施したアクション

高校の探究で待機児童や子育ての不安について取り上げ活動していた。そこで子ども食堂の活動に参加をして周りの人にこの状況にあることをポスターとパンフレットをつくり、校内に設置し、アンケートの実施をした。またマイプロジェクトアワードにて発表することでよりこのアクションを深く考えることができた。

数値的成果

◆お金の寄付	円	◆物の寄付	個
◆ボランティア時間	3 時間	◆インパクトを与えた人数	人
◆その他			

なぜこの社会問題に取り組んだのか？

学校の探究で始めたのがスタート。子どもが好きでもっと子どもについて知りたいと思ったから。

感想

うまく行くとときと行かないときの、波があり、精神的にきつい時もあったが、楽しくできた。

報告者

形態 グループ 人数 20人 活動地 神奈川県 区分 大学生
名前/グループ名/グループメンバー
JUNKO Association
ベトナムプロジェクト

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 教育格差

アクションの種類 ボランティア 実施期間 2021.8.30-2022.1.23

支援先

実施したアクション

現地協力者であるDa Nang JUNKOとzoom上でミーティングを行い、意見交換や交流などを行った。

なぜこの社会問題に取り組んだのか？

コロナの影響でベトナムに渡航できない今、現地の状況を自分自身の目で見ると課題を見つけるということが出来なくなりました。以前から繋がりがあった現地協力者との関係を強化することで、少しでも多くの情報を獲得し、現地に渡航できるようになった時にスムーズに企画を進めることができる。

数値的成果

◆お金の寄付	円	◆物の寄付	個
◆ボランティア時間	時間	◆インパクトを与えた人数	人
◆その他			

感想

お互い母国語ではない英語でコミュニケーションを取るというのはとても難しい取り組みだった。日本人メンバーはベトナム語を勉強し、個人的にもたくさん話しかけて友達になるなどし、組織としてだけでなく人として関係が深まったと思う。

報告者

形態 グループ 人数 2人 活動地 東京都 区分 その他
名前/グループ名/グループメンバー
さつき

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 リサイクル

アクションの種類 ボランティア 実施期間 2021.12.1-2022.2.28

支援先

実施したアクション

地域のリサイクル活動への取り組み

数値的成果

◆お金の寄付 円
◆物の寄付 個
◆ボランティア時間 時間
◆インパクトを与えた人数 人
◆その他

感想

意識が高まり、ゴミを捨てるよりプラや紙を見たらリサイクルというようになった。

なぜこの社会問題に取り組んだのか？

未就学児でも簡単にでき、大切な意識だと思ったから

2

Fundraising

資金調達

形態 人数 活動地 区分
 グループ 6人 東京都 その他
 名前/グループ名/グループメンバー
報告者 FTCJ子どもアンバサダー
 &有志メンバー
 波田野優、かな、はるか、りお、ふゆこ、
 ゆりな

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 貧困

アクションの種類 資金調達

実施期間 2021.12.19

支援先： FTCJ、インドの女性



取り組んだアクション

インドの女性にヤギを送るための千歳烏山駅
 周辺での募金活動。

数値的成果

◆お金の寄付	◆物の寄付
58,767 円	個
◆ボランティア時間	◆インパクトを与えた人数
時間	人
◆その他	

なぜこのアクションに取り組んだのか

コロナウイルスの感染拡大により新たに貧困に陥った人が多くいることを知ったから。また、インドの女性の収入が向上することで、貧困のサイクルが良い方向に向かい、家族全体の貧困、差別、飢餓、栄養失調、学習の不平等などの様々な問題が少しでも解決されるといいと思ったから。直接募金の呼びかけをすることで、資金調達だけでなく貧困問題や活動についても知ってもらう機会になると考えたから。また、FTCJのオフィスの近くで行うことでFTCJについて地域の方に知ってもらえるから。

アクションに取り組んでみての感想

初めは寄付してくれる人がいなくて悲しい思いをしたけれど、より多くの人に寄付してもらえるようにメンバーと工夫し、それを実践することで想像以上のお金が集まってとても嬉しかった。次回は今回の改善点を生かしてより沢山の募金を集めてもっと多くの人を助けられるようになりたい。

工夫したこと
 達成したこと

最初はなかなか募金が集まらずにいたため、アイデアを出し合って、みんなで声を出したり積極的に募金を集めた。目を合わせながら呼びかけた。はっきり聞こえるようゆっくりと大きな声で話した。積極的にチラシを渡しに行った。募金してくれた方に「ありがとうございます」を伝えるようにした。団体や活動について聞かれたときにしっかりと説明できるように準備した。「がんばってね」などの声をかけられて嬉しかった。戻ってきて入れてくださったり、子どもが協力してくれたりして嬉しかった。

困難だったこと
 次回に活かすこと

5000円払わないといけないと勘違いさせてしまったので「いくらからでも大丈夫」などの表記があったらよかった。疲れてくると笑顔が減ったから、休憩があった方がよい。背景の問題についてももっとプレートに書いて知ってもらえたらよかった。支援に関する説明・チラシを作ってしっかりと目的を伝えたい。呼びかけで言えることはもっとあったと思う。伝えたいことを明確にした方がよい。FTCJや活動について聞かれた時に、詳しく分かりやすく説明が出来なかったため、今後はきちんと説明できるようにメモや説明の練習など準備していきたい。

メッセージ

大変だけれど、自分が社会に貢献できるんだと実感できるから、ぜひチャレンジしてほしい。達成感がある活動。お金が集まらなかったとしてもやること自体に意味があると思う。何を伝えたいか考え、そのための準備も大切にしてほしい。活動をスタートしても、うまくいかない時は、メンバーと改善方法を話し合って工夫していくことが大事だと思います。

報告者

形態 人数 活動地 区分
グループ 9人 東京都 中学生

名前/グループ名/グループメンバー

Free The Children Japan
子どもアンバサダー
フェアトレードチーム

なの ゆりな かな
ゆう 莉緒 つかさ
きさら ひなこ えいみ

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 児童労働

アクションの種類 資金調達 実施期間 2021.12.19-2022.3.11

支援先 ケニアのマサイ民族のお母さん達

取り組んだアクション

寄付付きのフェアトレードチョコレートを販売し、商品価格の58%をケニアの女性達の自立支援のために寄付しました。

チョコッと寄付で、みんな幸せ。フェアトレードチョコレート「FURAHA」



チョコッと寄付で、みんな幸せ。フェアトレードチョコレート「FURAHA」

数値的成果

◆お金の寄付	◆物の寄付
108,920 円	個
◆ボランティア時間	◆インパクトを与えた人数
時間	人
◆その他	

なぜこのアクションに取り組んだのか

世界には親の給料だけでは生活が出来ず、働いている子どもがいます。生まれた場所や環境に関係なく全ての人々が教育を受け、おいしいご飯を食べられるようになってほしいと思い、寄付付きのフェアトレード商品を販売しました。

アクションに取り組んでみての感想

多くの人にフェアトレードの存在、児童労働の現状について伝えることができ、とても嬉しいです。この商品をきっかけに私の家ではフェアトレード商品を買うことが増えました。

工夫したこと 達成したこと

どのように多くの人にフェアトレードや児童労働について伝えるか、どうしたら多くの人に商品を買ってもらえるかを、みんなで考えながら文章やデザインを考えました。

困難だったこと 次回に活かすこと

商品が余ってしまったら損をしまうので(寄付と原価のみの価格設定のため)次は余裕を持った価格設定にしたいです。

メッセージ

私達も買っていただいた方も、寄付先のお母さんや子どもたちも幸せになって欲しいという『FURAHA』に込められた思いがたくさんの人に伝わったと思います。ご購入下さった方々や、応援して下さい下さった方々、本当にありがとうございました！

報告者

形態 人数 活動地 区分
個人 1人 滋賀県 中学生

名前/グループ名/グループメンバー

武川小春

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題

アクションの種類 資金調達 実施期間 2022.1.6-17

支援先

取り組んだアクション

アクションキャンペーン
SHARE CARDS (書き損じハガキ回収x検診の機会提供)



数値的成果

◆お金の寄付	13,103 円	◆物の寄付	個
◆ボランティア時間	時間	◆インパクトを与えた人数	人
◆その他	10人から259枚のはがきを集めることができた		

なぜこのアクションに取り組んだのか

アクションに取り組んでみての感想

個人での活動だったため集まるか不安だったが、いざ声をかけてみると協力してくれる友達や親戚が多かった。「やってみることでわかることもあるな」と思う。結果として1万円以上(5人分)はがきを集めることができ、やりがいを感じた。自分の小さなアクションで5人もの命を守れたと思うと、とても嬉しいし温かい気持ちになった。

工夫したこと 達成したこと

今回は、すぐに多くのはがきを集めたかったためSNSで個人個人にメッセージを送ったり、友達に直接はがきを持っているか聞いたりした。そのことで一人一人に直接このアクションを伝え協力してもらうことができた。また、内容をまとめたミニポスター(デジタルで作ったもの)を送ったり、POPを作ったりしたのもわかりやすく良かったと感じた。

困難だったこと 次回に活かすこと

今回のアクションはあまり大規模なものではなく個人で声掛けを行い集めたが、手順やアピール方法も掴めたため次は学校や地域でのアクションに発展させ、多くの人を巻き込み行うものを起こしたい。

メッセージ

今回の私のように「できるのかな」「集まらないかも……」と悩んでいてアクションを起こそうか迷っている方!思い切って行動してみれば、周りの人たちは協力してくれると思います。さらに興味を持ってもらうには、直接心に届くアプローチ方法(SNSを活用したり、広告を作ってみたり)を考えるといいのではないのでしょうか!

形態 人数 活動地 区分
 グループ 2人 大阪府 高校生
 名前/グループ名/グループメンバー
報告者 Turcks
 Seata/せーた。
 T

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 水問題と児童労働

アクションの種類 資金調達 実施期間 2021.11.1-12.31

支援先: フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

なぜこの課題に取り組んだのか

自分たちは、学校に行き十分な教育を受けて活動できているのにも関わらず、アフリカなどの国々の発展途上国の国々の子供たちは水運びに明け暮れる生活を送っている。子供たちが夢を持って現実的に叶えられない状況であることは絶対に良い社会ではないと思ったから。



数値的成果

◆お金の寄付	25,608 円	◆物の寄付	個
◆ボランティア時間	時間	◆インパクトを与えた人数	6 人
◆その他			

取り組んだアクション

水問題についての情報をYouTubeで発信し、ケニアの子供たちに安全な水を届けられるようクラウドファンディングを行なった。クラウドファンディングを広めるために、FTCJホームページやInstagramにて募金の協力をしたいとお願いした。

なぜこのアクションに取り組んだのか

水問題についての正しい知識を広めたり、水問題についての関心を持つ人を増やし多くの人が積極的に行動できる社会にするために必要だと考えたから。また、クラウドファンディングを通して、水問題によって苦しんでいる、辛い思いをしている子供たちを助けることができると考えたから。

**工夫したこと
達成したこと**

SNSを通して多くの人たちに支援してもらえるように、色々な方法を用いて情報発信を行った。その結果、目標には達成しなかったものの、約25000円というお金をは積めることができた。

**困難だったこと
次回に活かすこと**

お金を集めたり、クラウドファンディングに参加してくれる人を増やすということはとても困難だと感じた。今後、自分達の活動でクラウドファンディングを行うときは、お金を投資したくなるような興味深い内容にすることを心がけるようにする。

メッセージ

人生で初めて、国際貢献をしてみてアクションを成功させることはとても難しいと感じた。今後は、たくさんの仲間を集めてもっともっと多くの人たちに国際貢献がそこまで難しくなくて「誰でもできる」ということを伝えていきたいと思った。そして、クラウドファンディングなどの今回のアクションに参加していただいた方々ありがとうございました。

報告者

形態 人数 活動地 区分
個人 1人 兵庫県 高校生

名前/グループ名/グループメンバー

SAKURA F.

兵庫県立舞子高等学校
「災害とボランティア」選択者

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 貧困および災害の被害

アクションの種類 資金調達 実施期間 2022.1.17-1.21

支援先 UNICEF



取り組んだアクション

日本を含め、世界には貧困および災害の被害によって苦しんでいる子どもたちが大勢いる。UNICEFへ募金するために、募金の目的・実施日を学校放送やポスターで知らせ、朝の登校時に募金を実施した。

数値的成果

◆お金の寄付	4,240 円	◆物の寄付	個
◆ボランティア時間	1.15 時間	◆インパクトを与えた人数	50 人
◆その他			

なぜこのアクションに取り組んだのか

小さい時からテレビCMや授業で何度も貧困問題について教えてもらったり考えたりしてきた。また、「災害とボランティア」の授業で見たDVD『世界で一番美しい村』で、地震や大雨で村や家が壊れてしまう様子を見て、少しでも不自由なく過ごしてほしいと思ったから。

アクションに取り組んでみての感想

実際に、前もって準備をしていたので、募金してくれる人が予想より大幅に増えた。

工夫したこと 達成したこと

寄付してもらいやすくするために、箱のデザインや集金の場所、時間帯を考えた。

困難だったこと 次回に活かすこと

1日目は、知り合いや友人が募金してくれたが、2日目以降も同じ時間帯・場所で実施したので、知り合いでなくても前もってお金を準備して募金してくれた。

メッセージ

1, 2日だけ募金の呼びかけをするよりも一定の期間続けた方が良い結果になる。実際に、前もって予想しながら計画を立て準備をしたので、募金してくれる人が大幅に増えた。

報告者

形態 人数 活動地 区分
個人 1人 兵庫県 高校生

名前/グループ名/グループメンバー

SHUNTA S.

兵庫県立舞子高等学校
「災害とボランティア」選択者

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 途上国における子どもや赤ちゃんの死亡率が高いこと

アクションの種類 資金調達 実施期間 2022.1.17-1.22

支援先 UNICEF

取り組んだアクション

赤ちゃん・子どもたちの命を救うための募金を行うことを、学校放送やフライヤーで知らせた。実際に早朝5日間、昇降口で募金を実施した。



数値的成果

◆お金の寄付	4,240 円	◆物の寄付	個
◆ボランティア時間	1.15 時間	◆インパクトを与えた人数	800 人
◆その他			

なぜこのアクションに取り組んだのか

インターネットやYouTubeの動画、記事などで、世界には幼くして亡くなる命がたくさんあることを知り、それを募金と言う方法で救いたかったから。

アクションに取り組んでみての感想

みんなのやさしさや思いやりを感じた。

工夫したこと 達成したこと

募金をしていることが分かりやすいよう、箱をデザインした。

困難だったこと 次回に活かすこと

早朝の登校時だけでは時間が足りないと思ったので、次にアクションを起こす時は、違う時間帯にも行いたい。

メッセージ

みんなのやさしさや思いやりを感じられた。

形態	人数	活動地	区分
個人	1人	兵庫県	高校生
名前/グループ名/グループメンバー			
報告者 MIKU Y. 兵庫県立舞子高等学校 「災害とボランティア」選択者			

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 子どもの飢餓と相対的貧困

アクションの種類 資金調達 **実施期間** 2022.1.17-1.21

支援先 兵庫県「こども食堂」応援プロジェクト



取り組んだアクション

兵庫県が実施している「こども食堂」応援プロジェクトに寄付するため、1月17日～21日の5日間、毎朝15分募金活動を行った。校内放送及びフライヤーで事前にそのことを周知してもらい、活動を実施した。

数値的成果

◆お金の寄付	4,240 円	◆物の寄付	個
◆ボランティア時間	1.15 時間	◆インパクトを与えた人数	人
◆その他			

なぜこのアクションに取り組んだのか

「災害とボランティア」の授業だけでなく、他の授業でも子どもたちの孤食が増えていると聞き、子どもたちが温かい雰囲気の中でおいしいご飯を食べてほしいと思ったから。

アクションに取り組んでみての感想

募金をする前は、寄付金が多く集まるか自信がなかったが、毎日募金をしてくれる人や、呼びかけに立ち止まって寄付してくれる人がいて、人の温かさを感じることができた。

**工夫したこと
達成したこと**

募金活動を実施するために、きちんと計画を立てて準備をした。

**困難だったこと
次回に活かすこと**

呼びかけの時、どんなことを言ったら良いのかよく分からなかったため、次に実施する時は、と考えておきたい。

メッセージ

募金をする前は、寄付金が多く集まるか自信がなかったが、毎日募金をしてくれる人や、呼びかけに立ち止まって寄付してくれる人がいて、人の温かさを感じることができた。

報告者

形態	人数	活動地	区分
グループ	56人	ミャンマー ベトナム	大学生
名前/グループ名/グループメンバー			
JUNKO Association			
咲良			

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 教育の場が不安定

アクションの種類 資金調達 実施期間 2022.2.10-3.10

支援先 タンリン僧院学校



取り組んだアクション

ミャンマーにあるタンリン僧院学校は現在、情勢や新型コロナウイルスの関係で教育の場が非常に不安定な状況です。この事実を知った当法人は緊急性をもってタンリン僧院学校に寄附をする運びとなりました。寄附をするにあたって、当法人は外部への募金活動に励みました。現在、このようなご時世で街頭募金や対面での活動が制限されている中、非対面での募金活動の呼びかけを強化して集めることができ、先日、目標金額を達成いたしました。

数値的成果

◆お金の寄付	約55万 円	◆ボランティア時間	募金期間中 時間
◆インパクトを与えた人数	未熟知（オンラインでも実施していたため、多数の方にミャンマーの現状を知ってもらったともいます）		

なぜこのアクションに取り組んだのか

当法人は開発途上国の恵まれない子どもたちがよりよい教育を受けられる環境の創造を目指し活動しております。子どもたちの教育の場を守り続けるためにも、上記に記した通りのアクションが必要だと判断いたしました。

アクションに取り組んでみての感想

たくさんのご協力とご支援をいただき目標金額を達成することができ、当法人一同、再度、皆様のお力があってのJUNKO Associationであると認識しました。現地の声はこちらに入ってきてづらい状況ですので、自己満になってしまっていますが、このような活動を通して、現地の子どもの教育の場を守り続けることができ、安心した日常に少しでも戻すことができることに言葉にするのが難しい感情が湧き上がっております。まだまだ、私たちができることはたくさんあると思っております。立ち止まらずに現地の方と一緒にできることを探し続け、みんなが笑顔で満足な日々を送ることのお手伝いができたら幸いです。

工夫したこと 達成したこと

やはり、このご時世での募金活動には少し苦労しました。対面での活動が制限されているので、街頭募金や募金箱の設置ができなかったため1ヶ月間という短い期間で55万円を集めるのに多くの時間を使い話し合いをしました。学生や理事の方と意見を交わしたり、提案したり、知恵を合わせたりなど、多くのご協力があり目標金額を達成できたことに担当者一同感動と感謝の気持ち、達成感を感じております。

困難だったこと 次回に活かすこと

0からのスタートが多かったため、時間や手間、ミスなどが生じてしまったことが多かったため、マニュアルを作成し今回の活動を次回に活かせるようにしました。
例) チラシやポスターの作成、動画の作成、募金の集め方、SNSの活用など

メッセージ

ぜひ、この活動に興味や関心ございましたら、JUNKO AssociationのHPやInstagram等でさらに詳しく知ることができるのでぜひチェックをお願いします！

報告者

形態 個人 人数 1人 活動地 埼玉県 区分 大学生

名前/グループ名/グループメンバー

佐藤茉衣

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題

アクションの種類 資金調達

実施期間 2022.1.2-1.3

実施したアクション

アクションキャンペーン
SHARE CARDS (書き損じハガキ回収x検診の機会提供)

数値的成果

◆お金の寄付	円	◆物の寄付	集まったはがき21枚
◆ボランティア時間	時間	◆インパクトを与えた人数	人
◆その他			

アクションに取り組んでみての感想

家に余っていた書き損じはがきを寄付するだけで命を守る検診を提供する助けになるのは、嬉しいことだと思います。この活動がきっかけで書き損じはがきが誰かのためになることを知りました。このように支援の方法は様々あるはずなので、調べていろいろな活動に参加していきたいです。

報告者

形態 グループ 人数 4人 活動地 埼玉県 区分 大学生

名前/グループ名/グループメンバー

佐藤茉衣
やすこ、れいこ、くにかず

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題

アクションの種類 資金調達

実施期間 2022.1.3

実施したアクション

アクションキャンペーン
BOOK BETTER WORLD (古本回収x学用品提供)

数値的成果

◆お金の寄付	610 円	◆物の寄付	
◆ボランティア時間	時間	◆インパクトを与えた人数	人
◆その他			

工夫したこと

自分が集めた本だけでなく、親や祖母にも協力してもらいました。

工夫したこと

祖母に「いない本はあるか。」と相談したところ、「前はたくさん本を持っていたけれどほとんどは捨ててしまった。こういうこと(寄付)ができるのもっと早く知っていれば良かった。」と言っていました。この経験から私は、自分の周りの人にもっと活動を広めたいと思いました。

感想

少ない金額ではありますが、本を売ったお金で少しでも教育の機会を応援する役に立てたと思うと嬉しいです。今回の活動で、人の為に慣れたと思うと心も豊かな気持ちになります。この活動は、小さなことでも達成感がありました。他の活動にも参加してみたいので調べて参加してみます。

報告者

形態 人数 活動地 区分
個人 1人 広島県 その他

名前/グループ名/グループメンバー
平山恭子

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 子どもの貧困

アクションの種類 資金調達 実施期間 2022.3.12

支援先

実施したアクション

募金での支援

なぜこの社会問題に取り組んだのか？

少しでも世界中にいる子どもたちの支援の力になることを願って取り組みました。

数値的成果

◆お金の寄付

◆物の寄付

円

個

◆ボランティア時間

◆インパクトを与えた人数

時間

人

◆その他

感想

もっともっと世界の様々なことを知り、自分にできることを見つけていきたいです。

3

Awareness-Raising

啓発活動

形態	人数	活動地	区分
個人	1人	東京都	小学生
名前/グループ名/グループメンバー			
波田野 優			

報告者

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 児童労働・子どもの権利

アクションの種類 啓発活動 実施期間 2021.4.22-2022.1.29

支援先

取り組んだアクション

【児童労働】●毎日小学生新聞に手紙郵送。インタビュー記事が紙面掲載●読売子ども新聞に手紙郵送●サミット(株)本社にフェアトレード商品取り扱いのお願いの手紙持参。広報担当の方に対応していただく●京王ストア永福町店に手紙持参。フェアトレードチョコレートシリーズ商品の取り扱いを始めていただく●JICA児童労働オンラインセミナーの講師で30分登壇●共同通信社の取材後、47都道府県地方紙に掲載●杉並区立子ども園訪問、児童労働絵本読み聞かせ●児童労働啓発動画作成、第3回SDGsクリエイティブアワード審査員特別賞受賞●せたがや国際メッセ登壇【子どもの権利】●院内集会にて「子ども基本法」制定、「子ども家庭庁」設立に向け提言活動や国会議員・各省庁職員と対話●毎日小学生新聞に院内集会記事掲載●子どもの権利フォーラムにてオープニングセッション登壇、分科会運営参加



数値的成果

◆お金の寄付	◆物の寄付
円	個
◆ボランティア時間	◆インパクトを与えた人数
時間	人
◆その他	●取材を受けたメディア: 2社 (毎日新聞社、共同通信社) ●講師として登壇した団体の数: 1 (JICA)

なぜこのアクションに取り組んだのか

開発途上国の多くの子どもたちが健やかな成長を妨げられ、将来の人生を切り開いていくために必要とされる教育を受けられず、過酷な労働をしていることを知り、今私が不自由なく学校に通い、友達と遊ぶ日常との大きなギャップを知り心を痛めた。しかし、児童労働は他人事でなく、多くの輸入品に頼って生活する私たちに深く関わっていることと子どもの権利について多くの人に啓発したかったから。

アクションに取り組んでみての感想

児童労働問題や子どもの権利について多くの人に啓発できたと実感することができた。特に同世代の若者や国会議員や各省庁の方など、啓発する対象の方々と直接会った際には、彼らの反応からどのように相手はその問題を捉えているのかなどを知ることができたのでとても良い機会となった。児童労働や子どもの権利条約に対し、現在の日本社会では認知度がとても低いと考えている。その状況を改善することが問題解決への一歩につながるのではないかと考えている。例えば、児童労働問題においては、多くの輸入品の消費者である日本の私たちが、商品や製造過程の背景にある児童労働の子どもたちの現状を知ることから自分たちができることを考えることが問題解決の糸口につながると思う。このような視点からも、海外の児童労働の現状やサプライチェーンの仕組みを多くの日本人に伝えることによって、遠い国のことでない自分ごととして捉えてもらう良い機会となり、私のアクションにより多くの人に啓発できたことをとても良かったと感じている。

工夫したこと 達成したこと

●活動の対象の人に合わせて、より一層身近に感じてもらえるように日常生活に関わる事柄を上げてアプローチした。(例: 学生には学校生活の事、消費者の立場からは日々購入している物についてなど) ●アクションを起こすタイミングを考えた計画・行動した。(例: 児童労働反対世界デー、子どもの日、児童労働撤廃国際年など) ●活動の幅を広げるために、特にメディアでお世話になった方などにお礼の手紙を送るなど、ご縁を大切にしている。(例: 児童労働記事掲載でお世話になった記者の方に、子どもの権利活動でも連絡や報告をしている。名刺をいただいた方に後日お礼の手紙を書いたり、今後の活動への想いを伝える。)

困難だったこと 次回に活かすこと

コロナの影響で人と直接向き合って活動することに制限があり、一人一人へ訴えかけるような活動ができなかった。しかし、一方で「伝え方」を工夫し、動画作成、ブログの連載やZOOMを通して多くの人と関わることができるなど、新しい活動の方法を得ることもできたのでとても良かった。今後も様々な「伝え方」を工夫し活動をさらに広げたい。

メッセージ

社会を変える事は必ずしも毎回簡単であるとは言えません。私も活動する前はそうのように考えていましたが、今では一人一人の起こしたアクションが集まると必ず大きな力になるのだと感じることが出来ます。もしあなたが世界を変えるために何かアクションを起こしたいと考えるなら、小さな事でも始めてみてください。あなたの仲間は世界にいます。一緒に活動しましょう。

形態	人数	活動地	区分
個人	1人	岐阜県	中学生
名前/グループ名/グループメンバー			
山口 清崇			

報告者

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 子どもの権利条約・世界の貧困問題・食品ロス

アクションの種類 啓発活動

実施期間 2021.5.1-2022.3.31

支援先

取り組んだアクション

中学校の先生や校長先生にFTCJの活動のことを話して、子どもの権利条約について全校のみんなが学べる機会を作ってほしいとお願いした。去年に行われた夏のオンラインキャンプで、「おうちdeアクション」というプログラムがあって、それでぼくの住んでいる住宅の一軒一軒をインターフォンを押して、FTCJの資料を見せながら、はがきや書き損じはがき、切手、テレホンカードを集める事をやりました。子どもの権利条約を広める為に色々なイベントにとうだんしました。たとえば、「子どもの権利条約フォーラムinかわさき」「世田谷メッセ」「教育シンポジウム」。野田聖子大臣の意見交換会に参加した。



数値的成果

◆お金の寄付	円	◆物の寄付	個
◆ボランティア時間	時間	◆インパクトを与えた人数	人
◆その他	書き損じはがき 35枚	未使用のテレホンカード	9枚

なぜこの課題に取り組んだのか

日本にも世界中にも幸せではない子どもたちがたくさんいることが分かったから。分かったのはFTCJのオンラインキャンプに参加したことがきっかけでした。社会問題を子どもが声をあげて解決できる方法があるなんて知らなかったけれど、FTCJを知って活動とかをしていたら子どもにも出来ることはたくさんあると分かったし、そういう場所をFTCJが用意してくれるからぼくはそこで話をするのがアクションだと思うから。

アクションに取り組んでの感想

初めて世界の子どもの貧困や児童労働などが社会問題になっていることを知って子どもの権利条約というのがあることを知りました。日本ではいじめやヤングケアラーが社会問題と教えてもらってそれを良くするのは子どもが子どもの権利で守られているという事を知ることが大事だと思いました。子どもでも真剣に発言すれば大人は真剣に聞いてくれることが分かりました。

工夫したこと 達成したこと

ぼくは一人でも先生にお話しをしたり出来るけれど出来ない人はFTCJの子どもアンバサダーやスタッフの皆さんが親切に教えてあげるしっしょに出来ると思います。ぼくは話をするのが得意だから、話しが出来るところをFTCJのスタッフの皆さんが作ってくれるからそこで話をする事が出来ました。普通は出来ないことだと思う野田大臣との意見交換会に参加することも出来たしうれしかったです。自分たちのまわりの身近な社会問題はやっぱりいじめや貧困だから同じ子どもどうして助け合えると思います。

困難だったこと 次回に活かすこと

ぼくがアクションを早く起こしても大人の人たちとか先生はやってくださるまですごく時間がかかると思います。

メッセージ

社会問題を解決できるのはもしかしたら大人よりも子どもの方が時間が早くできるかもしれないと思います。だからたくさんの子供たちが力を合わせてがんばればすごい日本になれると思います。

形態 グループ 人数 2人 活動地 神奈川県 埼玉県 区分 中学生

名前/グループ名/グループメンバー

報告者 With Refugees

今川つかさ 植岡優里奈

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 入管問題

アクションの種類 啓発活動

実施期間 2021.10.8-11.30

支援先

なぜこの課題に取り組んだのか

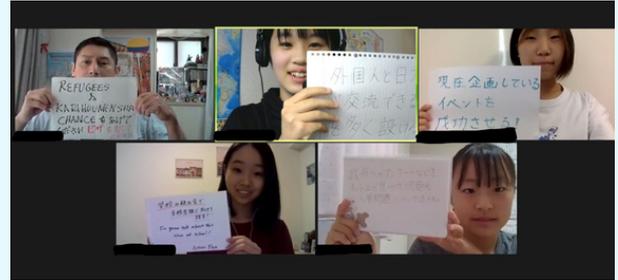
入管問題は、今すぐにも解決されるべきである重要な社会問題であるにも関わらず、認知度が低いことを疑問に思ったから。

取り組んだアクション

入管問題のアンケートを、日本語版・やさしい日本語版・英語版で作成し、24歳以下の子ども・ユースの方に回答していただいた。また、実際に入管施設に収容された経験のある方と、難民問題に関する活動をしている方をゲストスピーカーにお招きして、入管問題のオンラインイベントを開催した。

アクションに取り組んでみての感想

アンケート結果より、入管問題を知っている人は少ないということを改めて実感しました。しかし、知らなかった人に知る機会を与えられたという点でも、アンケートをしたのは良いアクションだったと感じました。



数値的成果

◆お金の寄付	円	◆物の寄付	個
◆ボランティア時間	時間	◆インパクトを与えた人数	116 人
◆その他			

工夫したこと 達成したこと

アンケートは誰でも気軽に答えられるという利点を利用して周知活動を積極的に行なったところ、目標としていた「100人の方に答えていただく」ことを達成できて良かったです。また、アンケートは日本語版のみならず、やさしい日本語版と英語版も作り、様々なバックグラウンドを持つ人が答えやすくなるようにしたのも目標を達成できた1つの要因だったと思います。そしてオンラインワークショップでは、入管問題について詳しく知らない人にも問題を身近に感じ意識を高めてもらうために、講師の方と当事者の方をお招きした点はこだわりました。当事者の方のお話はとても心に響くものがあり、主催した私たち自身も、刺激を受けました。

困難だったこと 次回に活かすこと

アンケートは目標人数を達成しましたが、オンラインワークショップは人数が集まらなかったのもっと様々な方法で集客を行うべきだったと思いました。また、メンバー同士でのコミュニケーションが上手くできていなかったことが原因で分担が偏りすぎてしまったり、アクションの準備をするのが作業化して、本来の目的を忘れかけたりしていたことがあったので、次回に団体でアクションを起こすときは個々のスケジュールや希望を反映させて、みんなが楽しめるようにしたいです。

メッセージ

アクションを起こす中では、心無い言葉をかけられたり、上手くいかないことがあったりして、挫折したりネガティブ思考になったりすることがあると思います。しかし、辛さを味わうと、アクションが成功したときの喜びや達成感は必ず倍増します。社会問題に向き合う中で、その大きさに立ち向かうのが怖くなったり調べて心を痛めたりしたときは、自分の心のケアもしっかり行いながら、少しずつ社会を良くしていきましょう！

報告者

形態 人数 活動地 区分
個人 1人 神奈川県 中学生

名前/グループ名/グループメンバー

moeka

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 子どもの権利啓発

アクションの種類 啓発活動

実施期間 2021.11.6-11.7

支援先 日本全国の大人と子ども

数値的成果

◆お金の寄付	0 円	◆物の寄付	0 個
◆ボランティア時間	当日21時間 子どもグループ会議18時間	◆インパクトを与えた人数	延べ1,600以上
◆その他	寄付行為は行っていませんが、活動自体は寄付によって支えられていました。		

取り組んだアクション

所属している川崎市子ども会議の方に実行委員としての参加のお声がかかったので、参加を決めました。私自身子どもの権利をあまり知らず、堅苦しいイメージがありました。ですが、子どもの権利をしっかり学んでからは、権利そのものに子どもたちにしてあげられることは少なくとも、権利を大人を含む様々な人が知ることによって、子どもたちを守ったり、将来へ向かっていく力になればと思い活動しました。

なぜこのアクションに取り組んだのか

毎年行われている子どもの権利条約フォーラムが、今年度は川崎で行われ、私は実行委員として子どもグループリーダーを務めさせていただきました。1日目の全体会では、日本全国の子ども会議や子ども団体と会場をオンラインでつなぎ、交流をしました。二日目の分科会では子どもグループは子どもの権利条約についてのワールドカフェを行いました。午前中は子どもの権利条約の4つの柱について4グループに分かれて話し合いました。午後は、このフォーラムのスローガンである「手を取り合ってにじいろの未来へ笑顔で歩もう」にちなみ、虹色の未来とはどんな未来か、そのために何をしたらいいのか話し合いました。

このアクションに取り組んでの感想

子どもだけでなく大人とも協力して企画したことがとても新鮮でした。私自身も日常的に子どもの権利について考えるきっかけとなりましたし、私よりも幼い子にも子どもの権利を知ってもらい、身近に感じてもらえた実感がありました。大人の方にも、話し合いに参加してもらうことで、子どもの権利へのハードルが下がったようで嬉しく思っています。

工夫したこと 達成したこと

子どもの権利についてみんなで考える時間を設けたことで、参加してくださった方の意識が少し変わったのかなと思っています。

困難だったこと 次回に活かすこと

子どもといっても年齢に幅があったので、特に小学生にわかりやすく伝えることを意識しました。

メッセージ

子どもの権利は人間としての大人も持っている人権を、子ども用に勉強のことなどを具体化して付け加えることで、子どもにフィットした形にアレンジしたものだと考えています。だから、面倒くさいものでも、意味のないものでも、皆さんに関係ないものでもありません。子どものいう大人になるために成長していている人とその過程を、様々な危険や苦しみから守り、成長の機会を得られるようにして、子どもが自分の道を切り拓いていくための「お守り」のようなものです。子どもは大人と同じではありません。だから、大人と区別して子供の権利があります。思い出したときに子どもの権利も皆さんのなにかの判断材料や守るための理由になればと思います。

報告者

形態	人数	活動地	区分
グループ	50人	東京都	中学生
名前/グループ名/グループメンバー			
Global kids英語会			

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 反戦と平和のメッセージ拡散

アクションの種類	啓発活動	実施期間	2022.2.27-3.14
----------	------	------	----------------

支援先	ウクライナ、平和、民主主義、自由の価値を重んじる全ての国、人々。
-----	----------------------------------

数値的成果

◆お金の寄付	円	◆物の寄付	個
◆ボランティア時間	時間	◆インパクトを与えた人数	人
◆その他			

実施したアクション

英語は世界に考えを発信するツールであるという理念の英語スクールの、小・中・高校、大学生OB・OGメンバーがウクライナ戦争の終結、平和の実現を願いメッセージを英語で発した動画を作成。特に今回、核兵器の使用への懸念があることから、唯一の被爆国として、ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ナガサキのメッセージも最後に強調した。

感想

反戦・平和活動をネット上でも展開できることを実感した。

なぜこの社会問題に取り組んだのか？

世界に自身の考えを発し、世界を変えることができる英語力を日々トレーニングしている。その学びを活かすチャンスだと捉えた。また、ウクライナで戦火の犠牲になっている子どもたちやロシアで反戦デモに参加している若者たちが次々逮捕される現状を見て、安全な民主国家に住んでいる者として、彼らの変わりに、きちんと表現の自由を行使すべきであるとの思いから。

形態 人数 活動地 区分
 グループ 7人 東京都 高校生
 名前/グループ名/グループメンバー
 Bridge

報告者

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 プラスチックゴミ問題

アクションの種類 啓発活動 実施期間 2021.9.18-2022.1.26

支援先

なぜこの課題に取り組んだのか

プラスチック製品の問題は近年話題になっていますが、実際のところ大きな改善がみられていません。そこで、微量ではありますがすこしでも私たちがプラスチックゴミ問題改善に協力できればいいなと思いました。



数値的成果

◆お金の寄付	円	◆物の寄付	個
◆ボランティア時間	時間	◆インパクトを与えた人数	人
◆その他			

取り組んだアクション

今年一年間では、学校の文化祭への出店とプラスチックゴミからアクセサリを作ることを行いました。アクセサリは、ペットボトルキャップを砕いてアイロンで溶かして型に入れます。そして、イベントにお邪魔してそのアクセサリとポスターと一緒に配る予定でしたが新型コロナウイルス流行の影響によりなかなか承諾してくださる場所がなく現在も場所を探し中です

なぜこのアクションに取り組んだのか

コロナが流行しているのので、イベントを開催するのが難しいと判断しました。そこで、配る形ならば、啓発活動にもつながりなるべく接触を避けることができると思いました。また、アクセサリを選んだ理由は、結局ゴミになるものを再利用できるものに変えることはとても意義があることだと考えたからです。

工夫したこと 達成したこと

実際に、プレシャスプラスチック鎌倉さんと交流してプラスチックゴミを違うものに変えることを学んだことです。家でアクセサリを作ることは全く違く、機械で作ることにより高度なものが作れました。学んだことで、自分たちが思っていたよりもプラスチックゴミを違うものに変えることはすすんでいると思いました。また、じぶんたちでも同じことを行うのでプレシャスプラスチック鎌倉さんに話を聞いたことでより自分たちも成長できたと思います。

困難だったこと 次回に活かすこと

新型コロナウイルス流行により、場所を借りたりすることは難しいことです。また、アクセサリを多く配ることができなかったです。そこで、次回は断られることを想定に計画を組んでいきたいです。、

メッセージ

何事もあきらめなければ、少しでも進んでいきます。一緒に社会を変えていきましょう！！

報告者

形態 グループ
人数 7人
活動地 オンライン
日本
区分 高校生

名前/グループ名/グループメンバー

HASHI

マコ・ブル・ミオ・ユウカ・
シュウゴ・ハルカ

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 工業的畜産が環境にかける負担について

アクションの種類 啓発活動 実施期間 2021.9.1-12.31

支援先

数値的成果

◆お金の寄付	円	◆物の寄付	個
◆ボランティア時間	20 時間	◆インパクトを与えた人数	7 人
◆その他	イベント参加者：7人 イベントのプロモーションによる SNSのフォロー：200人		

なぜこの社会課題に取り組んだのか

多様な食スタイルと、その背景にある問題をより多くの若者に知ってもらい、実践してもらうため。

取り組んだアクション

ミートレスについて知ってもらい、実践への壁を取り払うために、背景を説明するレクチャーと、実際にレシピを考案する内容を盛り込んだオンラインイベントを開催した。又その後、考案したレシピを実践に移す実践課題(My HASHIチャレンジ)に参加者の方々、HASHIのメンバーも含めて取り組み、SNSで作った料理の紹介をした。

なぜこのアクションに取り組んだのか

日常で消費されるお肉の多くは、生産段階で飼料用穀物・水・土地など様々な側面から環境に負担をかけている。お肉が生産される過程で起こっている環境破壊についてもっと知ってもらい、企業の畜産で生産されたお肉の消費を減らすことが急務である。また、実際に食生活に“ミートレス”を取り入れる方法についても共有することで、アクションを身近なものにしていくことも必要であるから。

工夫したこと 達成したこと

はじめに設定していた日にちでは、イベントの最小施行人数に達さなかったため、約1ヶ月延期をした。延期は、元々は少しネガティブなことと捉えていたが、延期の判断のおかげでイベントを無事開くことができた。延期は時によっては必要だと感じた。レシピを考えて実践するのはとても良いアイデアで、HASHIのメンバーも楽しんで取り組めたのでよかった。

困難だったこと 次回に活かすこと

イベントのプロモーションが難しかった。特に、SNSのフォロワー数が少なかったり、たくさんのコミュニティにシェアしなかったが人手不足で回らなかったりと大変だった。プロモーションにかけられる時間を、少しスケジュールを立てる時から増やしておけば良いのかなと思った。

メッセージ

やはり、誰にでもできる！と思うことが大切だと思います。時には忙しくて挫折そうになることも多いですが、目的を見失わずに、これができたらこんな社会になる！とビジョンを持って活動できると自分自身の糧にもなって来るのかなと思いました。

報告者

形態	人数	活動地	区分
個人	1人	日本	高校生
名前/グループ名/グループメンバー			
Honoka/ほのか			

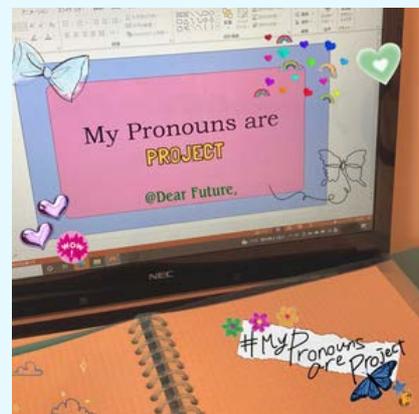
-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 ジェンダー代名詞

アクションの種類 啓発活動 実施期間 2021.4.1

支援先



取り組んだアクション

自認する性別をしめすジェンダー代名詞を日本に広めるために「My Pronouns are Project」というプロジェクトを私が運営するInstagram内で始めました。ジェンダー代名詞に関する発信を行ったり、イベントの運営や、スピーカーなどを行いました。

数値的成果

◆お金の寄付	円	◆物の寄付	個
◆ボランティア時間	時間	◆インパクトを与えた人数	人
◆その他			

なぜこの課題に取り組んだのか

自身の自認する性別を表すジェンダー代名詞を、教育機関に導入することで、幼い頃から多様性に触れる機会が増え、カミングアウト文化の少ない日本人が、多様性時代に柔軟に対応できるようになると考えました。

アクションに取り組んでみての感想

多くの刺激をうけた！

工夫したこと 達成したこと

ジェンダー代名詞は、日本の社会において、まだまだ浸透していません。だからこそ、プロジェクトへの理解を得るのはとても大変なことでした。とにかく興味をもって下さる方がどんなに少なくても、その方に一生懸命説明をし、理解していただけるように心がけました。

困難だったこと 次回に活かすこと

5000円払わないといけないと勘違いさせてしまったので「いくらからでも大丈夫」などの表記があったらよかった。疲れてくると笑顔が減ったから、休憩があった方がよい。背景の問題についてももっとプレートに書いて知ってもらえたらよかった。支援に関する説明・チラシを作ってしっかりと目的を伝えたい。呼びかけで言えることはもっとあったと思う。伝えたいことを明確にした方がよい。

メッセージ

大変だけど、自分が社会に貢献できるんだと実感できるから、ぜひチャレンジしてほしい。達成感がある活動。お金が集まらなかったとしてもやること自体に意味があると思う。何を伝えたいか考え、そのための準備も大切にしてほしい。

報告者

形態 人数 活動地 区分
個人 1人 兵庫県 高校生

名前/グループ名/グループメンバー

RION K.

兵庫県立舞子高等学校
「災害とボランティア」選択者

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 一人ひとりが応急処置の知識をもつ

アクションの種類 啓発活動

実施期間 2021.12.24-2022.1.17

支援先

取り組んだアクション

保健の先生から応急処置法を教えてもらい、それを部活のメンバーに教えて、全員ができるようにした。そのことを学校行事で発表し、健康や協力の大切さを訴えた。



数値的成果

◆お金の寄付

◆物の寄付

円

個

◆ボランティア時間

◆インパクトを与えた人数

時間

50

人

◆その他

なぜこのアクションに取り組んだのか

部活をしている時にけがをしやすい環境にあるので、一人ひとりが応急処置ができるようになると、安心して部活に取り組めるから。

アクションに取り組んでみての感想

いざとなった時には、性別・年齢など関係なく、助け合うことが大切だと思った。周りの人たちが協力・参加してくれたからこそ、アクションを達成できた。周りの人の大切さが身にしみてわかった。

工夫したこと
達成したこと

一人で保健の先生から応急処置を習うのが心細かったので、友達に助けてもらった。部活という少人数で正確に教えた。

困難だったこと
次回に活かすこと

応急処置の専門的知識が無いので、正確に教えることが難しかった。コロナ対策をしっかりとろうと思う。

メッセージ

一人ではできなかったけれど、皆がアクションに協力、参加してくれたからできた。

報告者

形態 人数 活動地 区分
個人 1人 兵庫県 高校生

名前/グループ名/グループメンバー

AKICHIKA M.

兵庫県立舞子高等学校
「災害とボランティア」選択者

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 SDGsの啓発

アクションの種類 啓発活動 実施期間 2022.1.14

支援先

取り組んだアクション

学校行事でSDGsとは何かを説明し、自分でできるアクションを考えてもらうアクティビティを行った。



数値的成果

◆お金の寄付	円	◆物の寄付	個
◆ボランティア時間	0.5 時間	◆インパクトを与えた人数	40 人
◆その他			

なぜこのアクションに取り組んだのか

食品ロスや海洋汚染問題など、世界には様々な喫緊の課題がある。その課題の解決には、SDGsが重要な役割を果たす。しかし、友達にSDGsを知っている人が少なかったから、まずSDGsとは何かを伝えることが大事だと思ったから。

アクションに取り組んでみての感想

人に伝える難しさ、考えることの難しさを感じた。

工夫したこと 達成したこと

誰にとってもわかりやすい発表となるように、例えを用いて説明した。

困難だったこと 次回に活かすこと

例えは思い浮かんだが、それをわかりやすくどうかみ砕いていうかに苦労した。

メッセージ

まずSDGsを知ること。多くの人がそうすることで、より早く社会問題が解決していくと思う。

報告者

形態 人数 活動地 区分
個人 1人 兵庫県 高校生

名前/グループ名/グループメンバー

AN W.

兵庫県立舞子高等学校
「災害とボランティア」選択者

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 生活習慣病の増加に対する予防

アクションの種類 啓発活動 実施期間 2022.1.14

支援先

取り組んだアクション

みんなが健康に長生きできるように、椅子に座って簡単にできる体操を考え、学校行事で、発表を聴いてくれている生徒たちと一緒に実施した。



数値的成果

◆お金の寄付	円	◆物の寄付	個
◆ボランティア時間	0.5 時間	◆インパクトを与えた人数	40 人
◆その他			

なぜこのアクションに取り組んだのか

運動不足などによる生活習慣病患者の増加が問題になっているが、運動を習慣づけるのはなかなか難しい。それでも隙間時間を作って、体操を継続していくことが大事だと思ったから。

アクションに取り組んでみての感想

人に何かを伝えることも難しさを改めて痛感した。しかし、「災害とボランティア」のメンバーと一緒にエクササイズをして、心強かった。

工夫したこと 達成したこと

途中で飽きてしまったり、面倒くさくなってしまうまいよう、複雑な体操は取り入れないように工夫した。

困難だったこと 次回に活かすこと

次回アクションでは、誰でも理解しやすいような言葉選びをしていきたい。

メッセージ

自分一人で体操をするのはとても心細かったけれど、アクションを実施している災ボラメンバーと一緒に実施してくれたのがとても心強く、良いチームだと思った。

報告者

形態 人数 活動地 区分
個人 1人 兵庫県 高校生

名前/グループ名/グループメンバー

KEIGO O.

兵庫県立舞子高等学校
「災害とボランティア」選択者

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 資源の無駄遣い

アクションの種類 啓発活動 実施期間 2021.12.17-12.24

支援先

取り組んだアクション

冬季休業中に無駄な電力を使わないために、休業前にコンセントを抜くなどして節電を呼びかけた。学校放送やフライヤーなどで節電の大切さを訴えた。



数値的成果

◆お金の寄付	円	◆物の寄付	個
◆ボランティア時間	1 時間	◆インパクトを与えた人数	800 人
◆その他			

なぜこのアクションに取り組んだのか

以前、テレビで節電の大切さを訴える番組を見た。電力供給が不十分な地域の生活を強いられている人が、日々の暮らしも大変苦労しており、胸が痛んだ。なるべく手軽な方法で、節電ができることを伝えたかったから。

アクションに取り組んでみての感想

無駄な電力消費を防ぐために、コンセントを抜くというのは、負担のかからない方法だったと思う。

工夫したこと 達成したこと

なるべく負担にならず効率の良い節電法を考えることで、実践しやすいと思ってもらえる活動にした。

困難だったこと 次回に活かすこと

次回アクションでは、もっと人を巻き込んで、協力者を明確にしたい。

メッセージ

一人でできることには限界がある。協力することの大切さを学んだ。

報告者

形態 人数 活動地 区分
個人 1人 兵庫県 高校生

名前/グループ名/グループメンバー

SOSUKE O.

兵庫県立舞子高等学校
「災害とボランティア」選択者

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 防災意識の低下

アクションの種類 啓発活動

実施期間 2021.12.20-12.27

支援先

取り組んだアクション

部員に対して土のうの作り方を説明し、実際にやってもらった。それから学校の備蓄倉庫や防災に関する場所を案内するツアーを開催した。



数値的成果

◆お金の寄付

◆物の寄付

円

個

◆ボランティア時間

◆インパクトを与えた人数

1

時間

30

人

◆その他

なぜこのアクションに取り組んだのか

日本は災害大国ともいわれ、兵庫県も1995年の阪神・淡路大震災を経験している。それ以降に生まれた若い世代の防災意識の低下を止めたいと思ったから。いつか来る災害で悲しい思いの人を一人でも減らすため。

アクションに取り組んでみての感想

人に教えること、伝えることの大変さを痛切に感じた。

工夫したこと
達成したこと

説明にあたり、何度もイメージトレーニングなどして、事前の準備を万全にした。

困難だったこと
次回に活かすこと

材料の収集と人手の不足が困難だったが、部活のメンバーに手伝ってもらって乗り越えた。

メッセージ

人に何かを教えたり伝えることは本当に大変だと思った。

報告者

形態 人数 活動地 区分
個人 1人 兵庫県 高校生

名前/グループ名/グループメンバー

KOKONE K.

兵庫県立舞子高等学校
「災害とボランティア」選択者

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題

世界中で家事使用人として働く少女たちが、基本的な教育を受けられず住居もないという問題

アクションの種類

啓発活動

実施期間

2021.12.25-2022.1.21

支援先

取り組んだアクション

古本・CD・DVDを回収し、寄付を行った。学校全体に対して放送やポスターで活動を宣伝し、人通りの多い昇降口や保健室前に回収BOXを設置した。



数値的成果

◆お金の寄付

◆物の寄付

円

128

個

◆ボランティア時間

◆インパクトを与えた人数

5

50

人

◆その他

なぜこのアクションに取り組んだのか

私たちの同年代の少女たちが基本的な教育を受けられないことはおかしいと思ったから。

アクションに取り組んでみての感想

活動の前に準備をしっかりとっておくことが大切だと思った。

工夫したこと 達成したこと

なるべく多くの古本・CD・DVDが集まるよう、回収期間・場所などを柔軟に変更した。

困難だったこと 次回に活かすこと

生徒による寄付が少なかったことで、先生にも呼び掛けて、寄付数を増やすことができました。

メッセージ

余裕をもって予定を組んでも、不都合があってもある。そのためにも準備をしっかりとっておくことが大切だ。

報告者

形態 人数 活動地 区分
個人 1人 兵庫県 高校生

名前/グループ名/グループメンバー

YUMA K.

兵庫県立舞子高等学校
「災害とボランティア」選択者

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 海洋プラスチックごみ問題

アクションの種類 啓発活動 実施期間 2021.11.29-12.14

支援先



取り組んだアクション

演劇部に所属しており、「人魚姫」の話を基に、オリジナルの劇「海 ゴミ 膿 護美」を作成し、学校行事「読み語り会」で上演した。

数値的成果

◆お金の寄付	円	◆物の寄付	個
◆ボランティア時間	0.5 時間	◆インパクトを与えた人数	20 人
◆その他			

なぜこのアクションに取り組んだのか

演劇部に所属しており、演劇を通して、海の問題について少しでも知ってもらおうと思ったから。

アクションに取り組んでみての感想

自分の知らなかった海のことについて学べた。スケジュール管理の大切さを学んだ。

工夫したこと
達成したこと

伝わりやすいようなセリフづくり、衣装づくりに取り組んだ。劇中にクイズを盛り込んだ。

困難だったこと
次回に活かすこと

今回のアクションでは時間に余裕がなかったので、次のアクションでは、スケジュール管理を怠ることなく、台本の改善や練習にもっと時間をかけたい。

メッセージ

自分の知らなかった海のことについて学べたし、次にはスケジュール管理をしっかりしてより良いものを作りたいと思う。

報告者

形態 人数 活動地 区分
個人 1人 兵庫県 高校生

名前/グループ名/グループメンバー

AYAKA K.

兵庫県立舞子高等学校
「災害とボランティア」選択者

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 二酸化炭素排出量の増大

アクションの種類 啓発活動 実施期間 2021.12.24-2022.3.9

支援先 HOYA株式会社 アイケアカンパニー



取り組んだアクション

「アイシティ ecoプロジェクト」を利用して、学校内で使い捨てコンタクトレンズの空ケースを回収した。生徒のみんなに知らせるために、学校放送、ポスター掲示などを行った。

数値的成果

◆お金の寄付	円	◆物の寄付	個
◆ボランティア時間	時間	◆インパクトを与えた人数	800人
◆その他	2/14時点で空ケース1170個を集めた。		

なぜこのアクションに取り組んだのか

二酸化炭素排出量の問題を先延ばしにしていたら、いつまでたっても解決しません。一刻も早く解決に向かって進んでいくべきと思ったから。

アクションに取り組んでみての感想

SDGsだけでなく、何か行動を起こすことが大切なんだと思った。

工夫したこと 達成したこと

回収できるコンタクトの良い例と悪い例をポスターにして掲示しておいた。そのため、回収しにくいケースが少なかった。

困難だったこと 次回に活かすこと

次のアクションでは、ポスターをより大きくして、回収場所が目立つようにしたい。

メッセージ

SDGsだけでなく、何か行動を起こすことが大切なんだと思った。

報告者

形態 人数 活動地 区分
個人 1人 兵庫県 高校生

名前/グループ名/グループメンバー

YUMA T.

兵庫県立舞子高等学校
「災害とボランティア」選択者

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 うつ病増加に対する理解の啓発

アクションの種類 啓発活動 実施期間 2021.12.22

支援先 UNICEF



取り組んだアクション

うつ病についてどう思うかのアンケートを取り、そのアンケートから分かったこととうつ病についての知識、自分の意見を交えたプリントを配布した。

数値的成果

◆お金の寄付	円	◆物の寄付	個
◆ボランティア時間	2 時間	◆インパクトを与えた人数	8 人
◆その他			

なぜこのアクションに取り組んだのか

自分自身もうつで悩んでいた。偏見ばかり聞くのが辛く、うつ病でも生きやすい社会になってほしいと思ったから。

アクションに取り組んでみての感想

世の中にはいろいろな人がいる。十人十色。お互いがお互いを認め合うべき。

工夫したこと 達成したこと

できるだけ多くの人に参加してもらえるよう、部活のメンバーに声掛けした。

困難だったこと 次回に活かすこと

話し方、言葉遣いが適切かどうか、自分がどう問われたら気分を害さないかを考えた。

メッセージ

世の中にはいろいろな人がいる。十人十色。お互いがお互いを認め合うべき。

報告者

形態 人数 活動地 区分
個人 1人 兵庫県 高校生

名前/グループ名/グループメンバー

KENTARO N.

兵庫県立舞子高等学校
「災害とボランティア」選択者

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 海の豊かさを守る

アクションの種類 啓発活動 実施期間 2022.2.1

支援先



取り組んだアクション

海の汚染は喫緊の課題だ。海の状況を知ってもらい、その豊かさを守ることを啓発する動画を作り、SNSを利用して多くの人に見てもらった。

数値的成果

◆お金の寄付	円	◆物の寄付	個
◆ボランティア時間	2 時間	◆インパクトを与えた人数	人
◆その他			

なぜこのアクションに取り組んだのか

一番身近にある環境問題だと思い、今の時代、多くの人が利用しているSNSを通じてこの問題を考えてほしいから。

アクションに取り組んでみての感想

今の海の状況、今後予想される海の状況を詳しく知ることができた。

工夫したこと 達成したこと

言いたいことをすっきりまとめて短めの動画にし、BGMも付けた。

困難だったこと 次回に活かすこと

著作権を守って動画を作ることが大変だった。

メッセージ

今の海の状況、今後予想される海の状況を詳しく知ることができた。

報告者

形態 人数 活動地 区分
個人 1人 兵庫県 高校生

名前/グループ名/グループメンバー

ASAMI N.

兵庫県立舞子高等学校
「災害とボランティア」選択者

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 地球温暖化

アクションの種類 啓発活動 実施期間 2021.11.29-2022.3.1

支援先

取り組んだアクション

地球温暖化と日本が2年連続で化石賞を受賞してしまったことに関するアンケート3つクラスでを実施し、その結果に基づいて、プリントを作成して、振り返りを行う。



数値的成果

◆お金の寄付	円	◆物の寄付	個
◆ボランティア時間	10 時間	◆インパクトを与えた人数	110 人
◆その他			

なぜこのアクションに取り組んだのか

日本が2年連続で化石賞を受賞したのが驚きで、このままではいけないと思ったから。アンケート調査を実施することで、データ・数字を使って、わかりやすく説明できるから。

アクションに取り組んでみての感想

分かりやすい言葉を選ぶ難しさを知った。

工夫したこと 達成したこと

プリントをわかりやすくするために、レイアウトを考え、絵なども利用した。誰にでもわかるように簡単な文章でまとめた。

困難だったこと 次回に活かすこと

アンケートの「その他」を書いてくれる人がいなかったため、その項目に例文などを記しておくべきだった。

メッセージ

プリント1つ作るためにたくさん調べ、読みやすい言葉に変換する難しさを知り、言葉の工夫の仕方を学んだ。

報告者

形態 グループ
人数 11人
活動地 神奈川県
区分 高校生

名前/グループ名/グループメンバー

学校での奉仕活動

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 難民問題・入管問題

アクションの種類

啓発活動

実施期間

2022.2.12

支援先

取り組んだアクション

学校の奉仕活動のグループでの活動になりますが、私がチーフを務めていたこともあり私がその問題を進めていく形でやりました。具体的には、難民問題について考え話し合う校内向けのイベントをオンラインで開催して、まず最初にスタッフで難民問題レクチャースライドを作って発表し、その後グループごとに分かれてディスカッションや今と未来で私たちにできることについてスライドにまとめ発表をし、それを通して難民問題を自分ごととして考えることを目的としました。私含め企画側のスタッフがファシリテーターを務めて参加者の意見を積極的に聞き、皆が平等に話せるようにすることを意識していました。これからやることとしてはそのイベントは終わったので、校内に難民問題啓発ポスターを作り飾る、ウクライナ問題が今深刻でウクライナの難民について調べてまとめる、それを学校の朝の会で発表したいと思っています。

目的
① 難民問題について、どのくらい知っていますか。世界には紛争などの影響で自国を離れて他国へ逃れる人が大勢います。また日本にも難民として助けを求めにやってくる人が存在するので。
② 難民問題について、どのくらい知っていますか。世界には紛争などの影響で自国を離れて他国へ逃れる人が大勢います。また日本にも難民として助けを求めにやってくる人が存在するので。

日時: 2022年2月12日(土)
9:00~12:30
場所: 自宅からzoomで
募集対象者: 中学生~高校生
募集対象者を拡大して随時募集します。
申し込みは投稿にあるGoogle formから
締切は2/9までです！
入試休み中の質問は投稿にあるgoogle form 有回答用で受け付けます！
難民問題は遠い国で起きている問題ではありません。身近に起きている私たちの問題でもあります。
これを読んで難民問題についてもっと知りたいたいと思ったあなた！
この機会を逃さないで！
たくさんのお返事、お待ちしております！

テーマは
Hot heart, cool head
cœur chaud, tête froide
これはすなわち社会問題へ取り組むときの心構えであり、問題解決への情熱を持ちつつその問題を客観的に捉えることが重要であるということを示しています。このテーマを常に念頭に置き、難民問題について知識を深め、ディスカッションや発表を通して、私たちにできることを考えていけたらと思います。あなたも社会問題解決に向けて一歩を踏み出してみませんか。

数値的成果

◆お金の寄付

◆物の寄付

円

個

◆ボランティア時間

◆インパクトを与えた人数

時間

人

◆その他

なぜこのアクションに取り組んだのか

難民問題について先生が勧めてくださったこともありですが、ニュースでスリランカの入管問題事件があり、その問題が大きく取り上げられたことも理由の一つです。難民問題・入管問題は私たちにとって身近な問題であり、遠い国の問題ではないことを実感させられました。私たちにできることはないか微力ながらも考えることが辛い思いをしている難民の気持ちに寄り添うことに繋がると感じました。

アクションに取り組んでみての感想

参加者やスタッフを含め16人がそのイベントに参加して、感想も書いてもらったのですが皆が一生懸命に考え刺激をもらったことや難民問題について深く考え、心温まる会になったと書いて頂きました。私自身も社会問題について考えるプログラムに色々参加してきたのですが、企画・運営側に回りチーフを務めてやるのは今回が初めてで、きちんと自分にチーフを務まるのかどうかとても緊張していました。けれど多くの人々が助けて下さり、その人たちの協力なしではこのイベントは成功しなかったと思っています。学校での宣伝・広報活動、チラシ作り、イベントの資料・司会進行、何から何まで皆と協力し合って行ったイベントはとても感極まるものでした。

工夫したこと 達成したこと

私は学校で社会問題について知れるオンラインイベントを開催しましたが、参加者を集めるため宣伝活動を頑張りました。ちらし、昼の放送での呼びかけ、iPadなどのデジタルツールを使っての宣伝は欠かせません。

困難だったこと 次回に活かすこと

オンライン上での時間配分は難しく、zoomのブレイクアウトを強制終了させたりして何とか時間内で終わらせましたが、そのような点で全体で把握していないことがあったのでそこに注意すべきでした。また扱った問題は難民問題で少し難しく感じた中学生もいたと思うので、ゲームなども取り入れられたらよいと思います。対象者はちなみに中学一年生から高校一年生まででした。スタッフとはオンライン上なので連携をもっととっておく必要があり、今何をやっているのかをグループごとで報告して可視化させることは必須です。

メッセージ

社会問題を解決するために私たちにできることは何なのかを常に考えることが大切です。社会問題啓発活動も重要で多くの人にその問題を知ってもらってこそ、解決策を導き出していくことができます。私たちの場合は難民問題を扱ったイベントを開催しましたが、その1ヶ月後にウクライナの難民が流出し、今難民問題は深刻な状況になっています。私たちが啓発活動を行ってこそ、実際に難民が多く流出し、ニュースに取り上げられた時、啓発活動によってそれなりに知識を蓄えておくことができたので、メディアリテラシーを高めて正しい判断ができると思っています。社会問題は知ることから始める必要があるように思います。

形態	人数	活動地	区分
グループ	9人	東京都	高校生
名前/グループ名/グループメンバー			
報告者 学生団体HASHI まこ、ゆか、みお、ブル、はるか、 ほんみー、しゅうご、ももか、きょうか			

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 工業的畜産による環境破壊について。

アクションの種類 啓発活動 **実施期間** 2021.9.4-12.27

支援先



取り組んだアクション

工業的に大量生産された食肉が、生産過程でどんな環境負担をかけているかを伝え、環境への負のインパクトを減らすためにできるミートレスという食スタイルを身近に感じていただき、実践をより簡単に感じてもらうために、一緒にミートレスメニューを考案・実践した。以上のことを、オンラインイベントの開催を通して実践した。

数値的成果

◆お金の寄付	円	◆物の寄付	個
◆ボランティア時間	時間	◆インパクトを与えた人数	7人
◆その他	イベント参加者数7人		

なぜこのアクションに取り組んだのか

食肉を食べないライフスタイルは広く知られていても、多くはネガティブな偏見から始まっている。このイベントを通して、環境を理由にしたミートレスという食スタイルがあること・そして意外と身近なことを紹介して、より様々な食スタイルをもっと気軽に試すことができるような社会をつくるため。

アクションに取り組んでみての感想

1から宣伝をすることが一番大変だった。まずイベントに興味を持ってもらう必要があるため、効果的な宣伝文句や方法を考えることに一番時間がかかった。

工夫したこと 達成したこと

集客と、グループ内で伝えたいことを統一すること、そのためのミーティングの時間づくりが難しかった。ブレイクアウトルームを作れないハプニングがあったが、なんとか乗り越えることができた。また、イベント終了後に反省会を行ったため、次回へ向けて活かせることが明確になった。

困難だったこと 次回に活かすこと

集客と、グループ内で伝えたいことを統一すること、そのためのミーティングの時間づくりが難しかった。ブレイクアウトルームを作れないハプニングがあったが、なんとか乗り越えることができた。また、イベント終了後に反省会を行ったため、次回へ向けて活かせることが明確になった。

メッセージ

メンバー全員が、自分がリーダー!と思うくらいの強い心構えが必要です! 逆に、それがあればどんな困難でも乗り越えられます!

報告者

形態 人数 活動地 区分
個人 1人 神奈川県 高校生
名前/グループ名/グループメンバー
南智笑莉

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 教育の質、情報格差、メンタルヘルス

アクションの種類 啓発活動 実施期間 2021.5.14-2022.3.12

実施したアクション

Instagramと所属しているガールスカウトの団を中心に、社会問題やニュースに対して自分が感じたことや疑問に思ったこと・二酸化炭素削減のために実践しているサステナブルなライフハック・所属している学生団体（国内教育関連・紛争下の教育関連）とNGO（アフリカ開発関連）での活動・ガールスカウトで企画運営したイベントについて・次世代を担う子どもたちや同世代が幸せに生きるために伝えたいメッセージ・みんなに知って欲しい社会問題・聴いてほしい音楽・観てほしい映画等を発信した。また、#onigiriaction等のオンラインソーシャルアクションにも積極的に参加した。



感想

多くの人が見ているため差別的な表現や誰かを傷つけるような表現には注意を払い、自分のありのままを飾らず発信しながら多くの人に自分の存在を知ってもらう過程は自分の特性や強みをフォロワーから教えてもらうことにもなった。実際に自分のSNSを見て興味を持ってDMをしてくれる同世代がいて、伝わっていると感じた時は嬉しかった。これからも誰かにとっていい影響を与えられるロールモデルであり、多くの人々が幸せに生きられる社会の構成員で居たい。

なぜこの社会問題に取り組んだのか？

自身の自己肯定感が周りに比べて高いと感じる中でその要因は豊富な知識や経験であることを知り、自分の持っている知識や考え・自分の楽しい生き方を発信することで、同世代・次世代がより自分と他人を愛しながら生きることができ、それこそが世界の平和に繋がると思ったから。

報告者

形態 人数 活動地 区分
グループ 30人 東京都 その他
名前/グループ名/グループメンバー
Change Makers（仮名）

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 包括的な持続的な目標とは？：特に環境汚染（水）と健康課題に着手

アクションの種類 啓発活動 実施期間 2021.6.1-2022.5.31

支援先

数値的成果

◆お金の寄付 円
◆物の寄付 個
◆ボランティア時間 時間
◆インパクトを与えた人数 人
◆その他

実施したアクション

SDGsソングの作成、パフォーマンス、調べ学習・発表、学校でできるSDGsなど。

感想

学びアクションに移すやりがいと、継続の重要性

なぜこの社会問題に取り組んだのか？

日常の中でSDGsについて学び、社会課題を見つけ、解決のための行動に移すためにできることを考えた中で、まずはSDGsの背景や全体像を学んだ上で、児童の関心の高いテーマを見つけ、共にアイデアを出し、楽しみながらアクションに取り組んだ。

4

Advocacy

政策提言

報告者

形態	人数	活動地	区分
個人	1人	東京都 カナダ	中学生
名前/グループ名/グループメンバー			
坂口くり果			

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 子どもの権利侵害

アクションの種類 政策提言 実施期間 2021.1.12.-2022.3.5

支援先

取り組んだアクション

子どもの権利条約を広め子どもへの虐待、家庭内暴力、子どもの貧困などの現状を減らすために、主に子どもの権利条約を日本全国の母子手帳に載せる必須項目にしてもらえるよう厚生労働省に働きかけるアクションを行った。今年是实现のために国会議員の方や世田谷区長に協力を求めたり、厚生労働省とかかわりのある知人に厚生労働省の現状や取り組みについて伺ったり、また、世田谷区の総合支所に世田谷区で私が区長に提言を行った後実際どのように母子手帳に子どもの権利条約が掲載されたのかを伺ったりして、その後実際に厚生労働省子ども家庭局母子保健課へ電話をして提言を行った。また、子どもの権利が守られていない現状と子どもの権利条約の重要性、そしてこのアクションを広めるためにスピーチコンテストに応募したり、イベントや集会でスピーチを行ったりもした。



数値的成果

◆お金の寄付	円	◆物の寄付	個
◆ボランティア時間	時間	◆インパクトを与えた人数	人
◆その他			

なぜこのアクションに取り組んだのか

私はこのアクションを小学5年生から行っており、実際に世田谷区で子どもの権利条約が母子手帳に掲載されるようになった。その後これを全国、そして母子手帳の普及とともに世界へ広げられるよう、またそれにより暴力を奮おうと思う大人や子どもがいなくなるよう、“子ども”にかかわる問題だからこそ“子ども”として責任をもって解決していきたいと思ったのでこのアクションを行うことにした。

アクションに取り組んでみての感想

内閣が新しくなり、厚生労働省が新しいトップのもと再発進したり、子ども家庭庁の創立準備、新型コロナウイルスの影響などでなかなか思うようにアクションが進まず、実際に全国の母子手帳に子どもの権利条約を掲載することはまだできていないが、この一年間日本とカナダ2か国で様々な手段を使いながらアクションを起こせてとても良い経験になった。また、今までアクションを起こしたり提言を行ったりしたときは一度で成功しあつという間に話が進むことが多かったが、今回は国の大きな機関ということもあり一度だけでは話がうまく進まなかったのが今回の反省を活かし、今また再挑戦しているところなのだが、これもとても良い糧になっているなど感じる。そして、今年はメディアの方に取り上げていただいたり自分からSNSやイベント、スピーチコンテストなど様々な手段で自分の想いを発信したくさんの方に届けることができたと思うのでこれもまたアクション実現の一歩になったのではないかなと感じた。

工夫したこと 達成したこと

今回私は厚生労働省という大きな国の機関への提言をメインに活動を進めてきました。いくら自分のオリジナルのアクションで、個人として活動してきたとはいえ実現のためにはやはり自分の力だけでは無理があると思います。そこで私は厚生労働省にいきなり提言を行うのではなく、国会議員の方や世田谷区長などに実際に提言を行い、厚生労働省の方とつながっていただき実現しやすくなるよう協力していただけないかお願いをしました。幸いたくさんの方が協力してくださることにになり、中には厚生労働省へ提言をするときのアドバイスをくださった方もいらっしゃいました。今は、その方々のご協力のもと実際に1ステップずつ実現に向けて再挑戦の準備をしています。

困難だったこと 次回に活かすこと

国の機関への提言は決して簡単なものではなく、一度でうまくいく可能性はほぼ0と言ってもいいと思います。今回私は新型コロナウイルスの影響や自分が留学しているということもありほとんどの活動がオンラインのものとなってしまいました。やはりそうすると直接提言するよりも熱や伝えたいことが伝わりにくいの、あまり思うようにアクションを進めることができませんでした。その反省を活かし、次回はどういう画面上や文章上で自分の想いを伝え、相手に届くようにするのかを考えアクションに取り組もうと思います。また、今年度協力すると言ってくれた国会議員の方々などとの人脈を大切に共にアクションを起こし、引き続き実現へ進んでいこうと思います。

メッセージ

まずアクションを起こすときに重要なのは“自分のオリジナルのアクションを起こす”ということ。もちろん最初は誰かのアクションを参考にしたり一緒に活動したり、イベントに参加したりすることも大切だと思います。けれどもそのあとステップアップして自分である問題に対してアクションを起こしてみたいと思うなら他の人に“こんな方法もあるのか！”と興味を持ってもらえるようなクリエイティブなアクションを考えてみるのが重要なのかなと思います。そうすれば簡単な道ではなくても、確実に自分が想いを伝えたい、訴えたい相手やたくさんの方々に自分のアクションに興味を持ってもらったり覚えてもらうことができ、アクションを実現させやすくなるはずですよ！

報告者

形態	人数	活動地	区分
個人	1人	日本	高校生
名前/グループ名/グループメンバー			
ひとみ			

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 子どもの権利

アクションの種類 政策提言

実施期間 2022.4.22-11.20

支援先 FTCJ

取り組んだアクション

何人かのFTCJのメンバーと共に院内集会やオンラインでのイベントに参加し、子ども基本法実現、子どもの権利向上のために提言を行った。私は主に、子どもコミッショナーなどの子どもの権利が守られているかどうか監視する機関の設置について訴えた。また、自分が子供の権利について知るのが遅く、もっと早く知っていたら自分が置かれている状況が子どもの権利条約に反することであると理解し訴えることもできたのに今まで自分が我慢すべきこと、しょうがないことだと思っていたため、そのようにしょうがない、どうにもならないと思う子どもが少しでも減り、子どもを守る制度や機関が必要だと説明した。また、子どもから相談を受けた時、子どものプライバシーを必ず守ることも徹底してほしいと伝えた。



数値的成果

◆お金の寄付	円	◆物の寄付	個
◆ボランティア時間	時間	◆インパクトを与えた人数	人
◆その他			

なぜこのアクションに取り組んだのか

今まで、子どもから大人に何かを訴えることはそもそも機会がなかったり、反抗的でまかせているなどと思われかもしれないと考えたりで、提言活動を行ったことがなかったが、それがまさに子どもの意見表明権が守られていないと気づいたから。

アクションに取り組んでみての感想

自分のような子どもが大人に意見を伝え、真剣な返答をもらえることに感動した。訴えることは簡単だが、現在の法や制度、慣習などを考えて新しく子ども基本法や機関を作ることは難しいことを実感した。また、提言にあたり統計や現在の制度などをしっかりと調べることで、知識が増えるだけでなく新たな問題点や改善策を思いつくことができて自分の勉強にもなった。そして日本には想像していた以上に苦しい状況に置かれている子どもたちがたくさんいて、その子どもたちの権利が守られるためにももっともっと積極的にアクションを起こしたいと思った。

工夫したこと 達成したこと

社会問題一つに対して、沢山の細かい問題やアプローチの仕方があるので、まず最初は一つに絞って資料を集めたり意見をまとめたら良いと思う。

困難だったこと 次回に活かすこと

自分の意見をまとめること。言いたいことはたくさんあるけれど、聞く人の立場になって、一貫性を持ち、一番伝えたいことを簡潔に言えるようになりたい。

メッセージ

社会問題へのアクションは、周りの目が気になったり、自分の力だけではどうしようもならないのではと躊躇してしまいがちですが、意志を強く持ち一度勇気をだせば、少しずつではありますが進展していくと思います。また、イベントへの参加など、降ってきた機会は逃さないようにしてほしいです。

5

Material Support

物資調達

報告者

形態	人数	活動地	区分
個人	1人	東京都	小学生
名前/グループ名/グループメンバー			
森 椿			

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 衣服の廃棄問題

アクションの種類 物資調達

実施期間 2021.10.17

支援先

数値的成果

◆お金の寄付

◆物の寄付

円

個

◆ボランティア時間

◆インパクトを与えた人数

時間

人

◆その他

実施したアクション

様々な理由で着られなくなり捨てられるはずだった服を、難民の人達に寄付する活動があります。その活動に、色々な場所からいらなくなった服を集め寄付をしました。

なぜこの社会問題に取り組んだのか？

親に勧められ、好奇心を持ったので実行してみることにしました。

感想

こんなことで、少しでも誰かが喜んでくれるのなら、ずっと毎回続けたいと思いました。

形態	人数	活動地	区分
グループ	6人	埼玉県	中学生
名前/グループ名/グループメンバー			

報告者

さいたま市立大谷場中学校
有志グループ

伊藤菜穂 今川つかさ 奥村双葉
滝田優羽 野崎葵 原悠太

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 子どもの貧困問題、教育格差

アクションの種類 物資調達

実施期間 2021.4.25-2021.7.31

支援先 クルドを知る会 みな風子ども食堂

なぜこの課題に取り組んだのか

世界には様々な社会問題がありますが、それと同じように日本国内にも重大な問題が多くあることを知り、何かしたいと思ったことがきっかけです。またその中でも、私たちと同じ子どもが理不尽な想いをすることがない社会を造りたいと考え、この社会問題に取り組みました。



数値的成果

◆お金の寄付	◆物の寄付
約1,300 円	個
◆ボランティア時間	◆インパクトを与えた人数
約6 時間	約100 人
◆その他	

取り組んだアクション

通っている中学校で私たちと同学年である中学2年生に、使っていない文房具とマスクを寄付してもらい、それを子ども食堂などの団体に届けました。また、子ども食堂ではボランティア活動も行いました。

なぜこのアクションに取り組んだのか

学校で文房具の落とし物が多くあるのを見つけ、落としても拾いにくる人が少ないことに疑問をもったので、同年代の子どもの助けになるとともに、寄付することを通して自分たちが無駄にしている文房具の多さに気づいてほしいと思い、このアクションに取り組みました。

工夫したこと 達成したこと

最初は、自分たちで計画はしたものの周りの人の反応が分からず不安でしたが、実際に寄付期間が始まると、あっという間に寄付の箱がいっぱいになるくらい、次々に寄付してくれたので、とても驚いたと同時に喜びを感じました。そして話し合いの中で、寄付をする際の梱包する袋がビニールだと環境に悪いのではないかという意見が出たため、急きょ学年での紙袋回収もしました。短期間であったにもかかわらず、200枚以上の紙袋が寄付されたときには、本当に達成感と感謝の気持ちでいっぱいでした。このように、寄付先のニーズや環境面にも配慮して活動を行えたので、成功でき良かったです。

困難だったこと 次回に活かすこと

普段の学校生活を送る中に活動を組み込んだため、休み時間は毎回話し合いをしたり部活を休んでアゴ取りを行ったりしなければならず、とてもハードスケジュールでした。テスト期間にも学校に残って準備をしていたりしたので、勉強時間が削られたのはかなり辛かったです。また、私たちの学校で生徒のみでアクションを起こしたのが初めてだったので、前例がない中で活動しなければならなかったのも大変でした。その様な理由から、アクションを起こす本来の目的を忘れかけていたこともしばしばあったので、次回からは、メンバー同士でお互いのスケジュールを伝えあい、こまめにコミュニケーションを取りながら活動を楽しみたいと思います。

メッセージ

この活動は一人では絶対に成功できませんでした。最初はためらいを感じますが、周りの数人の友達から始め、最後には大規模の人を巻き込めば社会を変えられるはず。大切なのは、「社会を変えたい」という強い思いだと思うので、初心を忘れずにどんどん新しいことにチャレンジしていきましょう！
Together, we can change the world!!

報告者

形態 人数 活動地 区分
個人 1人 東京都 中学生

名前/グループ名/グループメンバー

FTC
アンナ

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 貧困 フードバンク

アクションの種類 物資調達 実施期間 2022.1.9

支援先

数値的成果

◆お金の寄付	円	◆物の寄付	1	個
◆ボランティア時間	時間	◆インパクトを与えた人数		人
◆その他				

取り組んだアクション

お米5キロの寄付

なぜこのアクションに取り組んだのか

自分自身が母子家庭で、コロナ禍の影響を受けました。コロナの影響で失業し、生活保護を受けるギリギリにまでなった時期もありました。このような経験から、同じように困っているような人達に少しでも何か力になれないかと思い、まずはお米の寄付をいたしました。

アクションに取り組んでみての感想

まだまだ小さなアクションですが、もっと色々なアクションを続けて行きたいと思います。

▶ 工夫したこと
達成したこと

▶ 困難だったこと
次回に活かすこと

メッセージ

ジェンダー平等などまだまだ色々協力したいプロジェクトが沢山あります。今後とも頑張ります。

報告者

形態 グループ 人数 3人 活動地 兵庫県 区分 高校生

名前/グループ名/グループメンバー

平川来実
芝田美友
富山碧衣

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題

アクションの種類 物資調達 実施期間 2021.10.25-10.29

支援先 フードバンク関西

取り組んだアクション

アクションキャンペーン：We Scare Hunger



数値的成果

◆お金の寄付	円	◆物の寄付	個
◆ボランティア時間	14.5 時間	◆インパクトを与えた人数	人
◆その他	320人に声をかけ、40人から食料を集めることができた		

なぜこのアクションに取り組んだのか

アクションに取り組んでみての感想

予想よりも食品が集まらず驚いたが、思っているよりも食品を無駄にせず、買ったものはきちんと食べている家庭が多いことを表していると考え、嬉しく思った。

工夫したこと 達成したこと

今回、募集期間は4日間でしたが、前半はなかなか食品が集まらなかったです。その理由としてどのようなものを持ってきたら良いかわからないという意見がありました。そこで食品を寄付してもらっている箱のそばに回収例として食品の写真を掲示してみたり、実際の食品を置いてみたことで徐々に寄付をしてくれる生徒を増やすことができました。このような、具体性のある例を提示するという小さな工夫が大切だと感じました。また、回収に使った箱は開催期間がハロウィンが近かったこともあり、ハロウィン風に装飾してみました。このことでよりフードドライブの活動をしていることをアピールでき、気軽に参加してもらいやすいようにしました。

困難だったこと 次回に活かすこと

活動に参加してもらうことが難しかったです。学年全員から募集しましたが、持ってくるのが面倒くさいという意見が見受けられ、参加率は悪かったように感じられました。この状況を改善するためには、第一に食品ロスの現状を自分たちが理解し、周囲の人に周知することが大切だと思いました。次にこのような機会があれば募集をかけるのと共に相手に食品ロスの現状やフードドライブの活動の意義をしっかりと詳しく説明して活動に参加することに積極的になってもらえるようにするべきだなと思いました。

メッセージ

フードドライブの食品募集期間中は定期的に呼びかけることで活動をアピールし、より多くの人に参加してもらえるようにするといったのではないかと思います。また、募集する食品の例をあげることで具体的にどのような食品を持ってくればいいのかをイメージしやすくすると良いと思います。是非、自分たちが行っている活動に誇りを持って最後まで頑張ってください。応援しています。

報告者

形態 グループ 人数 5人 活動地 東京都 区分 高校生

名前/グループ名/グループメンバー

そうた ゆうき たける
りんたろう なみ

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題

アクションの種類 物資調達

実施期間 2021.10.27-10.30

支援先

取り組んだアクション

アクションキャンペーン：We Scare Hunger



数値的成果

◆お金の寄付	円	◆物の寄付	個
◆ボランティア時間	約2 時間	◆インパクトを与えた人数	人
◆その他	約10人から食料を集めることができた		

なぜこのアクションに取り組んだのか

アクションに取り組んでみての感想

全然集まらないと思っていたけど思ったより集まってよかった。学校内での呼びかけをしたが、少し足りなかったのかもしれない。次回このような機会があったら呼びかけにも力を入れてより多く集めることができたかなと思った。今回、この機会を通して食品ロスや食に対する意識が向上したと思った。

工夫したこと 達成したこと

ポスターを制作をして校舎のハブのエリアや教室にポスターを貼ることによって意識してもらう回数を増やせるようにした。また、InstagramのようなSNSを活用して宣伝するののも一つの方法になると思う。

困難だったこと 次回に活かすこと

ポスターのインパクトがなく、意識してもらえなかったんじゃないかと思った。宣伝をもう少し頑張って持って来てもらえるようにしたかった。

メッセージ

全然集まらなくてもいいと思います。少しでも集まればいいと思います。気持ちが大切なので。積極的に呼びかて集められるといいですね。

報告者

形態	人数	活動地	区分
グループ	2人	東京都	高校生
名前/グループ名/グループメンバー			
さやこ			

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 貧困問題

アクションの種類	物資調達	実施期間	2017.10.17-2022.2.26
----------	------	------	----------------------

支援先

実施したアクション

自宅で消費しない食料品を寄付しました。

なぜこの社会問題に取り組んだのか？

子ども食堂などの話を聞いて、自分にできることは何かと考えたからです。

数値的成果

◆お金の寄付	円	◆物の寄付	個
◆ボランティア時間	時間	◆インパクトを与えた人数	人
◆その他			

感想

自分の寄付した食料が少しでも役に立っていると思うと嬉しいです。

6

Behavioural Change

自己行動変革

報告者

形態	人数	活動地	区分
グループ	2人	東京都	小学生
名前/グループ名/グループメンバー			
はるみ			

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 ごみをへらす

アクションの種類 自己行動変革 実施期間 2022.2.11-2.26

支援先

実施したアクション

じぶんのフォークをもっていき、おみせでプラスチックのフォークをもらわない

なぜこの社会問題に取り組んだのか？

ごみをへらせるとおもった

数値的成果

◆お金の寄付	円	◆物の寄付	個
◆ボランティア時間	時間	◆インパクトを与えた人数	人
◆その他			

感想

やってみたらできた

報告者

形態 人数 活動地 区分
個人 1人 日本 小学生

名前/グループ名/グループメンバー

りま

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 リデュース、リユース、リサイクル

アクションの種類 自己行動変革 実施期間 2022.3.7

支援先 ユニクロ

取り組んだアクション

ユニクロの回収ボックスに着ることができなくなった、小さい服を寄付しました。ユニクロには回収ボックスというものがあります。それは、皆が着なくなった服を回収して、リユースでそのまま活用するものと、リサイクルで新たに生まれ変わらせるものがあります。そしてリユースの場合は、季節・男女・サイズなど届け先のニーズにきめ細かく対応できるように18種類に分類します。リサイクルの場合は、独自の技術で商品に使える生地を再生するそうです。そして、その服は世界中で必要とされる人の元へ届き、役に立ちます。



数値的成果

◆お金の寄付	円	◆物の寄付	3 個
◆ボランティア時間	時間	◆インパクトを与えた人数	人
◆その他			

なぜこのアクションに取り組んだのか

たまたまユニクロに行ったときに、回収ボックスというものを見つけました。その時から、その箱の存在が気になりました。よく箱に書いてある文字を読んでみるととても興味深いことが書いてあり、とても気になりました。そこでこの機会をきっかけに、調べてみようと思ったからです。

アクションに取り組んでみての感想

学校で学んだ3Rについてもっと知ることができてよかったです。このような、リサイクルボックスを置くお店が増えると、服がなく困っている人たちにも服が行き届き、廃棄される服も減ると思いました。これからも、着られなくなった服をリサイクルボックスに寄付したいと思いました。

工夫したこと 達成したこと

家の服の整理もできて、人の役に立つこともできた。

困難だったこと 次回に活かすこと

メッセージ

このような機会をきっかけに、気になっていた回収ボックスを調べることができて、自分の身近なところにもSDGsに貢献できる場所や物があることに気付くことができ、新しい気付きができました。ありがとうございました！！

報告者	形態	人数	活動地	区分
	個人	1人	山梨県	中学生
	名前/グループ名/グループメンバー			
松田 紬				



取り組んだ社会問題 人権などの問題について

アクションの種類 自己行動変革

実施期間 2021.6.15-8.3

支援先

取り組んだアクション

せやろがいおじさん、たかまつななさんと共に校則から子どもの権利条約まで幅広く対談した。また参加してくれた方たちとの交流会も実地。学生から大人までたくさんの世代の方が参加してくれた。



数値的成果

◆お金の寄付	円	◆物の寄付	個
◆ボランティア時間	約2 時間	◆インパクトを与えた人数	56 人
◆その他			

なぜこのアクションに取り組んだのか

少しでも子どもの権利条約について知ってくれば命を守る事にもつながります。そして子どもの権利条約を覚えている人が増えれば守る人も増えます。そうすればその子供たちが次の世代につないでいってくれます。そのためにまずは身近なことからということで校則についてを有名人と対談することで知名度を上げより多くの人々が考え自分の想いを言うことで人の命を守る第一歩になると考えたからだ。

アクションに取り組んでみての感想

言葉には表せないぐらいのうれしさや達成感、そして何より自分自身のアクションを起こすことに対する自信につながった。

工夫したこと 達成したこと

- ・人にどのように言えば相手が傷つかずさらに言いたいことが伝わるか。
- ・ファシリテートのしかた

困難だったこと 次回に活かすこと

- ・慌ててしまったりうまくまとめられなかったこと

メッセージ

知らなければ何も変えられない。そのためにはまず知る事。そして、知るだけでは何も変わらない。だから行動する。できないではなくやろうとするかしないか。もし何か行動したいならできないなんてことはないから仲間を集めて怖がらないで行動してみてください。

報告者

形態 人数 活動地 区分
個人 1人 東京都 中学生

名前/グループ名/グループメンバー

えーみ

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 ホームレス

アクションの種類 自己行動変革 実施期間 2021.12.18-2022.3.5

支援先

数値的成果

◆お金の寄付 円
◆物の寄付 個
◆ボランティア時間 時間 2人
◆インパクトを与えた人数 2人
◆その他

取り組んだアクション

ホームレスの方に居場所を提供したいという目標から、まだ実践には遠く、受験生であったので、実際に行って活動するということはできなかったけれど、自分なりにノートに情報をまとめるということをしてきました。それを家族に伝えることによって輪が少しでも広がったと思うます。世界や国を大きく変えるようなアクションではないけれど、自分のこれからの活動の土台を作ることができました。

なぜこのアクションに取り組んだのか

コロナになって、経済的に大変な人が増えていると感じ、その中でもっと大変なのは、お家がなく、帰る場所がないということです。自分がもしそんな状況になってしまえば、誰かに助けを求めるしかないと思ったので、私はその助ける側にならなければいけないと思いました。なのでホームレスの方に居場所を提供したいと考えました。

アクションに取り組んでみての感想

ホームレスの方は日本にはあまり増えているという実感が私たちには湧きませんが、海外ではとっても増えているということがわかりました。なのでホームレスの方を助けるというのはとても大変で長くかかる問題なのだと感じました。

工夫したこと 達成したこと

自分がどんなことを考えたか、ノートに残すこと。

困難だったこと 次回に活かすこと

情報はどれがあるのかわからなかったのもっと色々な人と共有したい。

メッセージ

報告者

形態 人数 活動地 区分
個人 1人 東京都 高校生

名前/グループ名/グループメンバー

サヤ

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 発展途上国の貧困問題

アクションの種類 自己行動変革

実施期間 2022.3.12

支援先

実施したアクション

フェアトレード商品の購入

数値的成果

◆お金の寄付 円 ◆物の寄付 個
◆ボランティア時間 時間 ◆インパクトを与えた人数 人
◆その他



なぜこの社会問題に取り組んだのか？

ニュースで10人に1人の子供が働いている状況や、現地の労働者の待遇が悪いと言うことを聞き、フェアトレード商品を買うことを親に勧められたから。

感想

フェアトレード商品は意外とたくさんあることや、コーヒーの支援先は女性であったことから、女性の労働を改善する必要があるという事実があることを知った。

報告者

形態 人数 活動地 区分
グループ 3人 埼玉県 その他

名前/グループ名/グループメンバー

くりはら

-関係するSDGS-



取り組んだ社会問題 環境

アクションの種類 自己行動変革

実施期間 2011.3.7-2022.2.6

支援先

実施したアクション

フードロスを無くす

数値的成果

◆お金の寄付 円 ◆物の寄付 個
◆ボランティア時間 時間 ◆インパクトを与えた人数 人
◆その他

感想

むずかしいことではありません。

なぜこの社会問題に取り組んだのか？

自分たちでもできる、子どもとできる、当たり前だけど大切なことを取り組み課題にしました

7

Social Business

ソーシャルビジネス

形態 グループ 人数 7人 活動地 日本 ミャンマー 区分 高校生

名前/グループ名/グループメンバー

報告者

Yangonかるたプロジェクト

野中優那 (代表)

-関係するSDGS-



iloveimg-compressed 2.zip



取り組んだ社会問題 国際問題・異文化の理解

アクションの種類 ソーシャルビジネス 実施期間 2021.5.1-2022.3.12

支援先

取り組んだアクション

日本の伝統文化である「カルタ」を利用して、平和な時代のミャンマーの人々の暮らし、文化、歴史を知っていただくことで、現在ミャンマーで非道な人権侵害を受けている人々にも、暮らしがあり家族がいるというストーリーを知らせる。自由も平和も、当たり前ではない国があり、私たちが若者が世界の問題を「自分ごと」として受けとめ、若い世代が異文化と多様性を知り、ミャンマーと日本の5年先の未来を作る活動をしている。2021年12月1日より、2月1日までかるた製作のクラウドファンディングを実施。目標金額150万円に対し、309万円のご支援をいただいた。かるたを用いて、小中高の学校、地域の国際交流施設、日本語を学ぶ難民支援の場などでイベントを実施するなど、日本の人々にミャンマーを伝える活動と、日本で暮らすミャンマー由来の方の日本語支援を実施。今後はミャンマー現地でも活動を広げる。

数値的成果

◆お金の寄付	円	◆物の寄付	個
◆ボランティア時間	時間	◆インパクトを与えた人数	322人
◆その他	クラファン支援金	3,096,500円	

なぜこのアクションに取り組んだのか

クーデター当日、私は現地で暮らしていた。しかし避難のために帰国した日本では、同世代はミャンマーに対する知識がなく、クーデターや世界の紛争に対しても、関心が薄かった。しかし、私もアフガニスタンや日本の相対的貧困などに対し、無知だと気づいた。世界の問題を自分ごととして捉えるためには、命のストーリーを伝える必要があり、まずは伝えることが未来を変えると感じて、活動を始めた。

アクションに取り組んでみての感想

私たちにはミャンマーの人を救うお金も力もないけれど、でも学ぶことで未来を変えられると信じて、活動をしてきました。「ミャンマーで起きていることは、正直、遠くの国で起きていることという感覚でした。でも、活動報告を読むうちに、そこにはごく普通の市井の人々がいて、私たちと何ら変わらない日々の生活があることに思いをはせるようになりました。」「ウクライナのニュースを見るたび、ミャンマーのことを考えずにはいられない」と言ってくれた人もいます。「ただいつかミャンマーに行ってみたい」「ミャンマーを好きになった」と言ってくれた人もいます。活動を始めてよかったと思える瞬間です。ミャンマーを忘れ去られた地にしないために、これからも活動を続けていきます。

工夫したこと 達成したこと

たくさんの人を活動に巻き込んでいくことが大事だと思う。クラファンでかるたを製作するにあたり、ミャンマーでものづくりをする人を巻き込み、それをリターンとして追加したことで、たくさんの方の当事者をつくった。活動に関わるすべての人に、当事者になってもらうことを常に意識した。専門家の方の意見をお聞きしたこと、またメディアにも積極的に出演したこと。

困難だったこと 次回に活かすこと

メッセージ

報告者

形態 個人
人数 1人
活動地 日本
区分 大学生

名前/グループ名/グループメンバー

ウメハラ

-関係するSDGS-



Ribbo 紹介.pdf

取り組んだ社会問題 応援を形にし、寄付をオープンにする

アクションの種類 ソーシャル
ビジネス 実施期間 2021.4.20-2022.3.22

支援先 FTCJ

取り組んだアクション

寄付した証をリボンNFTとして保有できるプラットフォームを作成し、応援が形として残るようにした。



数値的成果

◆お金の寄付	円	◆物の寄付	個
◆ボランティア時間	時間	◆インパクトを与えた人数	人
◆その他			

なぜこのアクションに取り組んだのか

自分自身が、寄付したことを偽善と言われた為、寄付をもっとオープンにできないか考えたから

アクションに取り組んでみての感想

今後多くの人に使ってほしい

工夫したこと
達成したこと

まだ何も達成できてない。

困難だったこと
次回に活かすこと

メッセージ

アクションキャンペーン Action Campaign

社会問題を解決するためにアクションを起こしたい！でも何からはじめよう？

アクションプランをゼロから自分で考えるのは自信ないな・・・と悩んでいませんか？
フリー・ザ・チルドレンでは、何かしてみたいけどどうしたらよいかわからない、という皆さんのために、すぐにアクションを起こせるよう、様々なアクションキットを用意しています。

ソーシャルアクションレポートに掲載されたみんなの活動も第一歩はここから始まったものもたくさん。

無料のキットを利用して、みんなで力を合わせて世界に変化を起こしていこう！

アクションキットは、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンのホームページからダウンロードできます。

7つのアクションキャンペーン

1.ORIGINAL

2.SPEAK UP

3.LOVE FAIR FESTIVAL

4.CREATE CHANGE

5.SHARE CARDS

6.BOOK BETTER WORLD

7.SCARE HUNGER

詳しい内容は次のページから！

アクションキットのダウンロードはこちら



フリー・ザ・チルドレン・ジャパンHP
⇒啓発プログラム
⇒アクションを起こそう
⇒アクションキット

ORIGINAL ACTION

好きなこと・得意なことを活かそう！

解決したい社会問題に対して
オリジナルのアクションを起こそう！



自分の得意なことを活かした オリジナルアクションを起こそう！

SDGsに触れながら、国内外の課題と自分との関係性を見つめ、取り組む課題とオリジナルのアクションを考えよう！

ORIGINAL アクションキット (オリジナルアクションを見つけよう！)

このORIGINAL アクションキットは、アクションを起こすための基本的な4つのステップを踏みながら、オリジナルのアクションを起こせるようになっていきます。仲間と一緒にアクションを起こせるキット内容ですが、1人でももちろん大丈夫。私たちフリー・ザ・チルドレンも、1人の少年のアクションから始まりました。



SPEAK UP ACTION

声を上げることは未来に変化をおこすこと！

「変だな」と感じることに
声をあげよう！



「変だな」と感じること + 声をあげる
= 未来に変化を起こす

気になる問題に変化を起こすために、学校やメディア、議員や首長に対して働きかけよう。
子どもが意見する権利は子どもの権利条約でも保障されている！

SPEAK UP アクションキット (気になることに声をあげよう！)

SDGsの達成に向け、子どもや若者が政策提言活動を通じて社会問題解決に取り組めるようデザインされています。気になる問題と声を上げるアクションを考え、実施～振り返りまでができるキットを使ってみよう！ 手紙の書き方・スピーチの作り方を事例も掲載しています。

Together we can change the world!

CHANGE MAKERS
アクションキット

SPEAK UP
-気になることに声をあげよう！-

ACTION KIT

SDGs ALL

資金調達 物資調達 自己行動変革
ボランティア 啓発活動 政策提言

FREE THE CHILDREN

SPEAK UP ACTION KIT

「変だな」と感じること + 声をあげる
= 未来に変化を起こす

キング牧師は、差別で分断されている社会から、人々が共に生きる社会へと変えるよう「I HAVE A DREAM」という言葉に、希望を託しました。私たち人間は、言葉を使って想いを分かち合い、社会全体を変えることができます。

希望を描き、変化を起こすことは年齢に関係なく、誰もができてよいことです。声をあげることで私たちが望む未来を描いていきましょう！

自分たちが声がかき上げられるという自信が必要

社会はよくなるだけでなく、よくなるだけではありません。年齢に関係なく、一人ひとりが社会を構成する大切な仲間です。社会のあり方や未来について子どもの声も、しっかりと聞かれます。

しかし、現在の日本では、若者の政治参加に対する意識が低いと言われています。それは、子どもの時から、自分たちの声が、地域や社会を変えていけるという体験をしていないからかもしれません。

日本を含む79国の若者13歳から29歳に対する意識調査の結果、「若い世代として積極的に政策決定に関与したい」と答えた割合は…

日本	33.2%	スウェーデン	47.0%	イギリス	61.6%	韓国	60.0%
フランス	56.4%	アメリカ	69.6%	ドイツ	54.5%		

このキットは、アクションを起こすための基本的な4つのステップを簡単なやり方から始めることができます。仲間と一緒にアクションを起こせる内容ですが、1人でももちろん大丈夫！ 私たちフリー・ザ・チルドレンも、1人の少年のアクションがきっかけになりました。

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンとは

1999年、世界中の13歳の少年クワイから始まったフリー・ザ・チルドレン。「子どもにも声をあげよう」という思いから始まりました。子どもが自由に意見を述べ、子どもが自分の力で世界を変えていけることを目指して、よりよい世界をめざし活動を起こせるよう環境づくりに取り組んでいます。

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンは、この理念に共感し、1999年に活動を開始しました。「子どもが意見を自由に述べ、子どもが自分の力で世界を変えていけることを目指して、よりよい世界をめざし活動を起こせるよう環境づくりに取り組んでいます。」

写真：クワイ (上段中央) - 一緒に活動をしたフレンド

1. 気になる問題やアクションに決めることを決めよう！

-SPEAK UP ACTION KIT-

2. スピーチの構成を考えよう

①テーマ、目的、伝えたいことを決めよう！

テーマ	目的	伝えたいこと
関心がある社会問題	スピーチをする中で目指す最終ゴール	目的を達成するために今のスピーチで訴えたいこと
例) 世界の貧困問題について	例) 世界の貧困から子どもを守るために	例) 貧困から子どもを守るために、自分たちができるアクションをとり、

②構成を組み立てよう！

素晴らしいスピーチの作り方

イントロ (導入)

①お話ししよう！
②挨拶、お名前、お名前をいっていただきます！
③お話し

ボディ

④お話ししよう！
⑤お話ししよう！
⑥お話ししよう！

まとめ

⑦お話ししよう！
⑧お話ししよう！
⑨お話ししよう！

LOVE FAIR FESTIVAL

イベントでみんなのチカラを集めよう！

エシカルなイベントを開いて
社会問題に取り組もう！

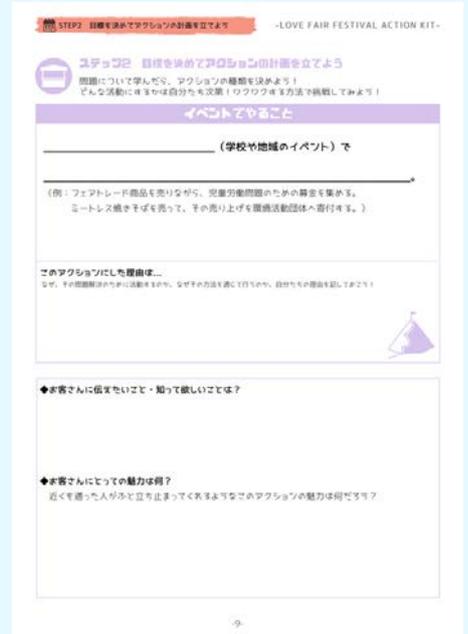


社会問題への関心 + イベント =みんなの関心・売り上げ寄付

学校や地域のイベントにエシカルな企画で出店しよう。人が集まるイベントは絶好の機会。解決したい問題について知ってもらい、協力してもらおうチャンス！

LOVE FAIR FESTIVAL (エシカルなイベントを開こう！)

フェアトレード商品の販売や売店の売上げの寄付、社会問題を知ってもらう出し物など、エシカルなイベントを開くアクションを、実施～振り返りまでができるキットです。楽しみながら仲間を巻き込み、社会問題に取り組んでみよう！



CREATE CHANGE ACTION

小さなチカラも集めれば大きくなる！

10円玉を集めて、収入向上の機会を応援しよう！

5,000円 = ヤギ1頭



身近なところから始める募金活動

10円玉募金を企画してインドのお母さんにヤギを贈ろう！

10円玉も集まれば、大きな変化を起こすことができる！ 5,000円集まれば、生活に役立つ1頭のヤギをインドのお母さんたちに送ることができます。貧困、格差、ジェンダー問題など、インドの女性がおかれている立場を学びながら募金活動を企画してみよう。

CREATE CHANGE アクションキット（募金活動をしよう！）

目標金額の決め方や募金の方法、集まった硬貨の両替や送金方法など、初めての募金活動に必要なあれこれを4つのステップでサポートするキットです。

SHARE CARDS ACTION KIT

眠っているハガキが大きなチカラに！

書き損じはがきを集めて、命を守る検診を全ての人に！



44枚
(2,500円分)



= 検診&衛生キット1人分



書き損じはがきを集めてワクチンを届けよう！ 眠っているハガキが大きなチカラに！

買すぎて余った年賀はがき、印刷ミスや書き間違えて送っていないハガキを集めれば、お金を集める募金と同じだけの力になります。2,500円分集まれば、1人の子どもにも検診の機会や衛生キットを提供でき、防ぐことのできる病気から命を守ることができます。

SHARE CARDS アクションキット（書き損じはがきを集めよう！）

命を守る検診を1人の子どもに提供するのに必要なのは、ハガキ44枚！ 一緒にアクションを起こして、途上国の子どもたちに健康的な生活を届けよう。書き損じはがきを集めて寄付をするアクションを考え、実施～振り返りまでができるキットです。

Together we can change the world!

CHANGE MAKERS アクションキット

SHARE CARDS ACTION KIT

-書き損じはがきを集めて命を守る検診を全ての人に！-

保健と衛生

資金調達 物資調達 自己行動変革
ボランティア 啓発活動 政策提言

FREE THE CHILDREN

SHARE CARDS ACTION KIT

医療格差 + 書き損じはがき = 命を守る検診を提供

書き損じはがきを集めて募金して医療の機会を提供しよう！ SHARE CARDSでは、家室に眠っている書き損じはがきを未使用の手紙を集めて寄付することで、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの支援地域の医療支援に繋がります。日本では、成長や健康の状況を把握する検診の機会が生まれるから何度もあります。世界中の子ども達も命を守る検診を受けられ、安心して過ごせるよう応援します！

世界では...
6人中1人、子どもが健康な誕生日を迎えることなく命を失っています。
→ 原因はほとんどは、予防（治療）可能な、熱病、下痢性疾患、マラリアなどです。

2,500円 = 命を守る検診を1人の子どもに提供できる！

このキットは、アクションを起こすための基本的な4つのステップを簡単に行動を起こすようにしています。期間1〜月にアクションを起こせばいいですが、1人でももちろん大丈夫！
無料のフリー・ザ・チルドレンも、1人の少年のアクションが生まれました。

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンとは
1995年、むじりの12歳の少年クレグが亡くなったフリー・ザ・チルドレン、「子どもたちに病も奪えない」「お父さんになってやらねば」と、活動を始めたフリー・ザ・チルドレンが、子どもたちに病も奪えない。そして活動を続けました。子どもたちを救うための存在ではなく、自分自身を救うための存在です。より良い世界を子どもたちが行動を起こすまで実現するために取り組んでいます。

写真：フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの活動の様子

STEP1 簡単なアクションに必要なことを調べよう！

SHARE CARDS ACTION KIT

🔍 コスロコ 健康やアクションに関することを調べよう！

◆ストーリーで知る『世界の子どもの健康』
インドのラジニダグア村に12歳の子供が生まれた少年、ソハブの話を読んでみよう。

ソハブは、大卒で奨学金がなかった4歳の男の子です。彼の地元では、ラジニダグア村のラジニダグア村には、子どもが健康な誕生日を迎えることができないか心配な親もたくさんいます。ソハブの親は友人が健康な誕生日を迎えることができないか心配な親もたくさんいます。

ソハブは健康な誕生日を迎えられず、寝てしまいました。健康な誕生日を迎えられず、寝てしまいました。健康な誕生日を迎えられず、寝てしまいました。

フリー・ザ・チルドレンが活動しているインドの地域は多くで、アクションが広がっています。保健所に出席する機会を増やしたことで、多くの健康な誕生日を迎えることができます。基本的な医療を提供するだけでなく、地域に、健康な誕生日を迎えられず、寝てしまいました。健康な誕生日を迎えられず、寝てしまいました。健康な誕生日を迎えられず、寝てしまいました。

フリー・ザ・チルドレンの支援で、インドのラジニダグア村で生まれた少年、ソハブは健康な誕生日を迎えることができました。保健センターが開設されているので、定期的に検診も受けています。また、ソハブは健康な誕生日を迎えられず、寝てしまいました。健康な誕生日を迎えられず、寝てしまいました。健康な誕生日を迎えられず、寝てしまいました。

🇯🇵 コスロコ 日本国民の健康増進

日本では、母子健康手帳により「1歳以内」と「2歳以内」の健康診断の機会があります。これに加えて、「1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月、9ヶ月、1歳、2歳」という時期によって異なる検診が、5歳までに多く受ける国民健康診断です。国民健康診断は無料で受けられます。この国民健康診断は検診を受けなくても健康診断を受けることができます。また、国民健康診断だけでなく、保健所や幼稚園、学校でも健康診断は毎年実施されています。こうした検診を通じて、健康な誕生日を迎えることができます。

📌 コンセプト 健康増進だけじゃなく1検診の機会

検診の支援は、現在の健康増進の機会を増やすだけでなく、検診の機会を増やすことも重要です。

検診の機会を増やすこと（検診の機会を増やすこと）の目的は、健康な誕生日を迎えることです。健康な誕生日を迎えることは、健康な誕生日を迎えることです。健康な誕生日を迎えることは、健康な誕生日を迎えることです。

BOOK BETTER WORLD ACTION

眠っている本が大きなチカラに！

古本を集めて換金して教育の機会を応援しよう！

 3,000円 =  学用品1人分



古本を集めて換金して教育の機会を応援しよう！ 眠っている本が大きなチカラに！

制服やノート、ペンなどの学用品は、家庭としてはお金のかかる部分であり、子ども達が学校に通うことを諦めざるを得ない理由のひとつとなっています。本棚に眠っている本を集めて古本屋に販売し、得たお金を途上国の子どもたちの教育ために寄付するアクションです。

BOOK BETTER WORLD アクションキット (古本を集めて換金しよう！)

学用品セットを1人の子どもに提供するのに必要なのは、3,000円。このキットでは、まず世界の子どもの教育事情を学びます。実際のアクションに必要な古本店選びから、集め方の工夫など、ひとりでも、仲間とでも、楽しく活動するためのヒントが書かれています。

SCARE HUNGER ACTION



眠っている食品で地域の人の子カラに！

フードドライブで食品を
必要としている人に届けよう！



フードドライブで食品を必要としている人に届けよう！
眠っている食品で地域の人の子カラに！

棚に眠っている食べきれない食品も集めてフードバンクに届けば、ご飯を必要としている人に届けてくれます。日本におけるフードロスの10%が正しく必要な人に届いたら、日本のすべての子どもが、栄養ある食事（昼食）をとることができるようになります！

SCARE HUNGER アクションキット（フードドライブ活動しよう！）

食べられる物が捨てられる「食品ロス」は日本だけで年間570万トン。国民1人が毎日茶碗1杯分（124g）のご飯を捨てていることとなります（2019年）。このキットを使って、家に眠っている食品を学校や職場で集めてフードバンクへ届け、必要な人に届けるフードドライブに挑戦しよう。



FREE THE
CHILDREN

誰かのために動く、
キミのための日。

CHANGE
MAKERS
FES 2022

Online
Party

ソーシャル・アクション・レポート 2021-2022

2022年5月31日発行

認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山6-6-5-3F

E-Mail info@ftcj.org

TEL 03-6321-8948

公式ウェブサイト

<https://www.ftcj.org/>



公式SNS

Facebook: [@freethechildrenjapan1999](#)

Twitter: [@FTCJ](#)

Instagram: [@freethechildrenjapan](#)